

Guitar Pro 5

ユーザーマニュアル

目次

4 1. ご使用にあたって

- 4 初めて起動するにあたって
- 4 Guitar Proのアンインストール
- 4 Guitar Proのアップデート

5 2. バージョンアップした内容と新機能について

6 3. テクニカルサポート

- 6 テクニカルサポートを受けるには
- 6 お問い合わせ先

7 4. 一般情報

- 7 イントロダクション
 - 7 ようこそ Guitar Pro へ！
 - 7 Guitar Pro の機能
 - 7 重要な点

8 楽譜を理解する

10 メイン画面

11 5. Guitar Pro を使う

- 11 スコアを書く
 - 11 新規スコアの作成
 - 12 パートの追加
 - 13 小節について
 - 16 音符の入力
 - 19 シンボルをスコアに入力する
 - 25 パラメーター・チェンジを挿入する
 - 26 歌詞入力
 - 28 マーカーを追加する
 - 29 カット / コピー / ペーストを使う
 - 31 ウィザードを使用する
 - 32 パーカッション
- 34 楽譜作業
 - 34 タブ譜を探す
 - 36 楽譜内を移動する
 - 37 ディスプレイ設定
 - 38 サウンドの設定
 - 41 楽譜を再生する
- 44 楽譜を印刷する
 - 44 ページ設定
 - 45 印刷する

46 楽譜をインポートする

- 46 スタンダード MIDI ファイルのインポート
- 48 ASCII フォーマットファイルのインポート
- 49 MusicXML ファイルフォーマットのインポート
- 49 PowerTab フォーマットファイルのインポート (Windows 版のみ)
- 49 TablEdit フォーマットファイルのインポート (Windows 版のみ)

50 楽譜のエクスポート

- 50 スタンダード MIDI ファイルのエクスポート
- 50 ASCII フォーマットファイルのエクスポート
- 51 MusicXML ファイルフォーマットのエクスポート
- 51 WAVE フォーマットファイルのエクスポート
- 52 BMP フォーマットのエクスポート (Windows 版のみ)
- 52 PDF フォーマットファイルのエクスポート (Windows 版のみ)
- 52 Guitar Pro 4 フォーマットファイルのエクスポート (Windows 版のみ)

53 6. ギタリストのためのツール

53 コードダイアグラムツール

- 54 ゾーン A - コード構成
- 54 ゾーン B - メイン・ダイアグラム
- 55 ゾーン C - ダイアグラム・リスト
- 55 リスト D - 別名
- 55 リスト E - 使用しているコード : (選択されているパートで既に使用されているコードリスト)
- 55 リスト F - ライブラリ
- 55 その他の要素

57 スケールツール

- 58 楽譜で使用されているスケールを解析させる

59 フレットボード

- 59 表示モード
- 60 フレットボードの音の表示の種類の設定方法
- 60 フレットボードのタイプ
- 60 フレットボードを左利き / 右利き用に切り替える
- 60 カーソルを合わせ音名を表示する
- 60 スケール(スケールツール)

61 キーボード

- 61 表示モード
- 61 カーソルを合わせ音名を表示する
- 61 スケール(スケールツール)

- 62 チューナー
- 62 MIDI チューナー
- 63 デジタル・ギター・チューナー
- 63 メトロノーム

64 索引

1 ご使用にあたって

初めて起動するにあたって

Guitar Proを起動するにはデスクトップ上のGuitar Proのショートカット（エイリアス）をダブルクリックするか、**スタート > すべてのプログラム > Guitar Pro 5**のメニュー（Windows）または、**起動 HDD > アプリケーション > Guitar Pro > GP5**（Macintosh）からGuitar Pro 5を選択してください。

Guitar Proを初めて起動する際に以下の設定をする必要があります。

- **Guitar Proで使用する言語の選択**
言語はGuitar Proの**オプション（Mac : 表示） > 言語**から変更することも可能です。言語を選ぶとヘルプメニューの言語も自動的に設定されますが、**オプション > ヘルプ用言語**でヘルプメニュー専用に別の言語を設定することも可能です。
- **ライセンスナンバーの入力**
このライセンスナンバー（USER IDとKEY ID）はパッケージに同梱されています。
重要事項：ライセンスナンバーはGuitar Proをインストールする際に毎回必要となりますのでお客様のライセンスナンバーは安全な場所に保管してください。
- **MIDI のセットアップ**
正しく設定されていることをご確認ください。もし設定が正しくない場合、ソフトウェア使用時に音が出ませんのでご注意ください。この設定はGuitar Proの環境設定で後から変更することも可能です。

Guitar Proのアンインストール

Guitar Proをアンインストールするには、Windowsのツールバーの**スタート > すべてのプログラム > Guitar Pro 5 > Uninstall Guitar Pro 5**メニューを選択してください。

Mac版では「アプリケーション」フォルダ内の「Guitar Pro」フォルダをゴミ箱へドラッグしてください。

Guitar Proのアップデート

Guitar Pro 5.xのアップデートはGuitar Pro 5のユーザー登録を行ったお客様に対して無償で提供させていただくものです。アップデートがリリースされた際にお客様のご登録メールアドレスへアップデートについての通知をお送りいたします。また新しいバージョンのアップデートがあるかどうかGuitar Proのメニュー（**ヘルプ > GPオンライン**）で確認することもできます。

Guitar ProのアップデートをダウンロードするにはカメオインタラクティブのGuitar Proのサイトをご確認ください。www.cameo.co.jp/gp/

アップデートによってはソフトウェアごと入れ替える場合もあります。その場合、お客様の設定は削除されますので改めてライセンスナンバーを入力する必要があります。

2 バージョンアップした内容と新機能について

バージョン5で主にバージョンアップした項目と新機能は以下の通りです：

- 新しいグラフィック・インターフェース
(スキンを変更することで以前のバージョンの表示に変更も可能)
- 4つの表示モード: ページモード、巻紙モード、垂直スクロールモード、水平スクロールモード
- 滑らかな画面スクロールと30%から200%の拡大縮小表示
- スコア表示機能の改善
- 自動水平配置機能とスコア上でのスペース調整機能
- 新規ページのセットアップ画面
- 高度な五線採譜機能 (エフェクト、符尾、連桁の向きなど)
- 各トラックの楽器設定 (タブ譜のみ/五線のみ/五線とタブ譜/コードダイアグラムなど)
- 編集や再生ツールを使用時の複数部分の選択機能
- 選択されたパートの再生機能 (複数パートと選択可能/ループ再生にも対応)
- トラックを上下移動可能
- 複声部入力機能 (リードラインとベースライン)
- コーダ、セーニョ、Fineと14の曲中でのジャンプ機能
- 8va/8vb/15ma/15mbの記号入力
- 小節に対しての8分音符または16分音符の連符効果
- 様々なエンディング設定機能の向上
- 装飾音符とゴーストノートの入力機能拡張
- タイでつながれた音符の効果
- ベンドとアーミングの詳細設定
- 人工ハーモニクスの完全対応
- Wah-wah (ワウワウペダル)
- 強いアクセント音の入力
- 楽器ごとのチューニング設定
- コードダイアグラムをスコアや、タイトルの下に表示
- リアルな楽器演奏能力搭載の新しいRSE (Realistic Sound Engine)
- Speed Trainer (スピードトレーナーの進歩)
- MusicXMLファイルのインポート/エクスポート
- PowerTabファイルのインポート
- TablEditインポート
- PDFエクスポート
- ASCII インポート/エクスポート機能の向上
- 完成したページのBMPエクスポート
- 簡単なWAVEエクスポート 機能の向上(Windows[®] Mixerを使用)

3 テクニカルサポート

テクニカルサポートを受けるには

- Guitar Proに同梱の登録カードに必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送にてお送りいただくか、登録カードに記載されているオンラインによるユーザー登録を完了してください。
ユーザー登録をすると、Guitar Proについて分からないことがあり、本マニュアルを読んでも解決できない場合に、テクニカルサポートを受けることができます。

お問い合わせ先

Eメールアドレス : support@cameo.co.jp

FAX番号 : 03-5539-3860

FAXでお問い合わせの場合は、同梱の「テクニカルサポート依頼用紙」をコピーしてご利用ください。

4 一般情報

イントロダクション

ようこそGuitar Proへ！

Guitar Proはあらゆるギタリストに向けてデザインされた優れたワークショップです。このソフトはユーザーのギターの実習や、作曲をサポートすることや、ギターの伴奏としてご使用いただけます。Guitar Proは4弦から7弦（ギター、ベース、バンジョー、マンドリン等）までの楽器用にデザインされています。

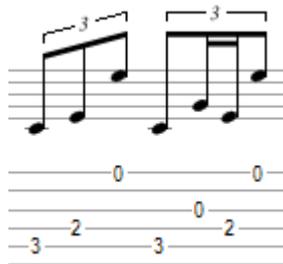
Guitar Proの機能

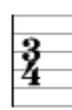
- **タブ譜を含む複数パートのスコア編集機能。**
簡単に記譜上必要とされる楽譜シンボルを入力でき、特に弦楽器向けにデザインされたソフトウェアです。
- **ギター奏法を細かい部分まで演奏に再現し、画面上の楽譜を見ながら演奏を聴くことができます。**
- **日常的にギタリストが使用するデジタル・ギターチューナーやコードダイアグラム・エンジンやスケールツール、フレットボードディスプレイなど様々な機能が搭載されています。**
- **様々なファイル形式のインポート/エクスポート機能。**
インターネット上で入手できる様々なファイル形式の音楽データをインポート/エクスポートすることによって膨大な量の楽譜を活用する機会を得るでしょう。

重要な点

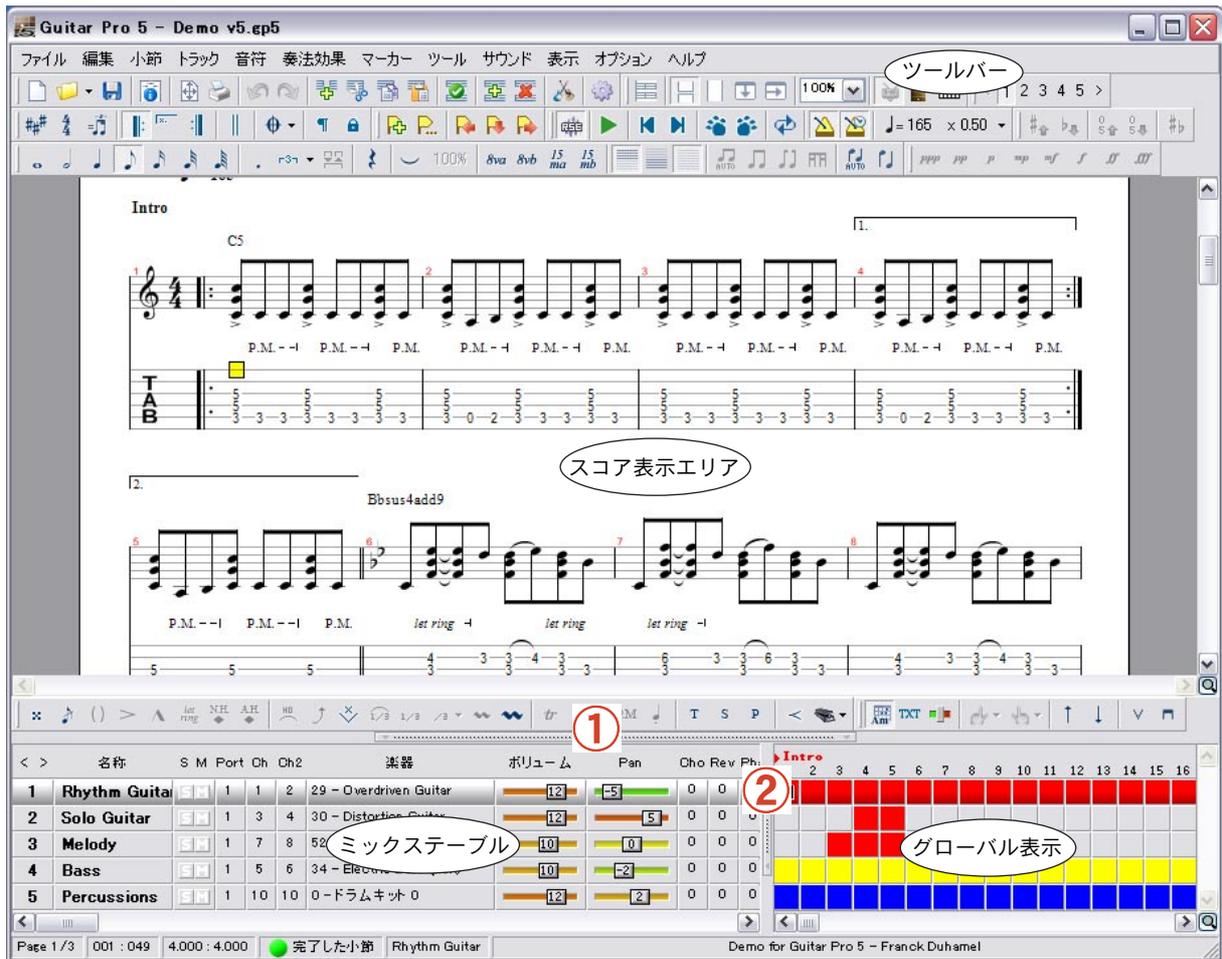
- **カスタム表示**
Guitar Proで作業をする際に、直接ページを水平または垂直に表示することができます。いつでも表示させているトラックと同様、楽譜のページサイズやバランスを変更することができます。
- **自動ページセットアップ**
Guitar Proは自動的に楽譜に入力した様々な音楽的要素（シンボルなど）を水平位置に配置します。そのため楽譜入力はとても素早くすることができ、高品質な仕上がりを期待できます。
- **複数パートの同期**
Guitar Proは楽譜上の複数パートを同期再生をします。記譜された楽譜の同期再生は楽譜を正確に再生させるために非常に重要です。
- **インタラクティブ・ツール**
Guitar Proの各ツールは選ばれている楽器パート設定に対して機能します。例えばギターチューナーを起動する際、選ばれているパートのチューニングをすることができます。

連符（3連符、5連符、6連符…）はある時間内に指定された数の音符が続けて演奏されます。例えば8分音符の3連符の場合、1拍分の時間に3連符（均等な長さで音符3つ）が演奏されます。



 拍子記号は1小節内の拍数を表します。例えば分母が"4"、分子が"3"と表示されている場合、1小節は4分音符3つ分の長さだということを表します。

メイン画面



Windows 版ではツールバーは動かすことや、画面から切り離すこと（浮かせた状態にすること）ができ、ユーザーの選択によって表示/非表示の切り替えが可能です。

Windows 版ではメニューの**表示 > メニュー & ツールバー > デフォルト位置**を選択することでツールバーをデフォルトの表示位置に戻すことが可能です。

メニューの**表示 > スキン**を選択することでボタンの表示スタイルを変更することができます。GP4 や GP3 のように旧バージョンの表示用スキンが組み込まれています。

画面のどのエリアもスプリッター①と②を使うことによってサイズ変更ができます。

画面の下にあるステータスバーではタイトルや、作曲者、小節やパートの位置、有効になっているパートの名前、有効になっている小節の長さの表示など様々な情報を表示します。

5 Guitar Proを使う

スコアを書く

新規スコアの作成

Guitar Proで新規スコアを作成するには以下の手順で行います。

1 新規スコア

メニューの  **ファイル** > **新規**を選択します。

このメニューは現在開かれているスコアを閉じ、新規で新しいスコアファイルを作成すると同時にスコア情報ウィンドウを開きます。



このウィンドウには曲名、アーティスト名の情報を入力できるほか歌詞も入力できます ([歌詞入力参照](#))。

デフォルト情報タブをクリックしデフォルト（初期設定）の情報を入力しておくとし新規でスコアを作成したときにその情報がそのファイルに反映されます。

OKボタンを押して次へ進みます。

2 調号

メニューの  **小節** > **調号**を選択し調号ウィンドウを開きます。

スコアの調号とモード（メジャー/マイナー）を設定します。もしわからない場合は変更せずにデフォルト値（Cメジャー）のままにしておいてください。

OKボタンを押して次へ進みます。

3 音部記号

そのパートの楽器チューニング設定（guitarまたは bass）により自動的に音部記号は設定されます。

4 拍子記号とシャッフル・リズム

メニューの  **小節** > **拍子記号**を選択し拍子記号ウィンドウを開きます。拍子記号の設定を行います。デフォルトでは 4/4 に設定されています。

拍子記号は1小節内の拍の数を決めます。

OKボタンを押して次へ進みます。

メニューから  **小節** > **スウィング・フィール**を選択しシャッフル・リズムの定義を行います。

OKボタンを押して次へ進みます。

5 トラック設定

メニューから  **トラック** > **プロパティ** を選択し「トラックのプロパティ」ウィンドウを開きます。このウィンドウで名前や色、チューニングなど各トラックのトラック設定ができます。

OK ボタンを押して次へ進みます。

メニューから  **トラック** > **楽器** を選択し「楽器」ウィンドウを開きます。このトラックで鳴らしたい楽器音色名とMIDIまたはRSEプレイバックのどちらかを選びます。

OK ボタンを押して次へ進みます。

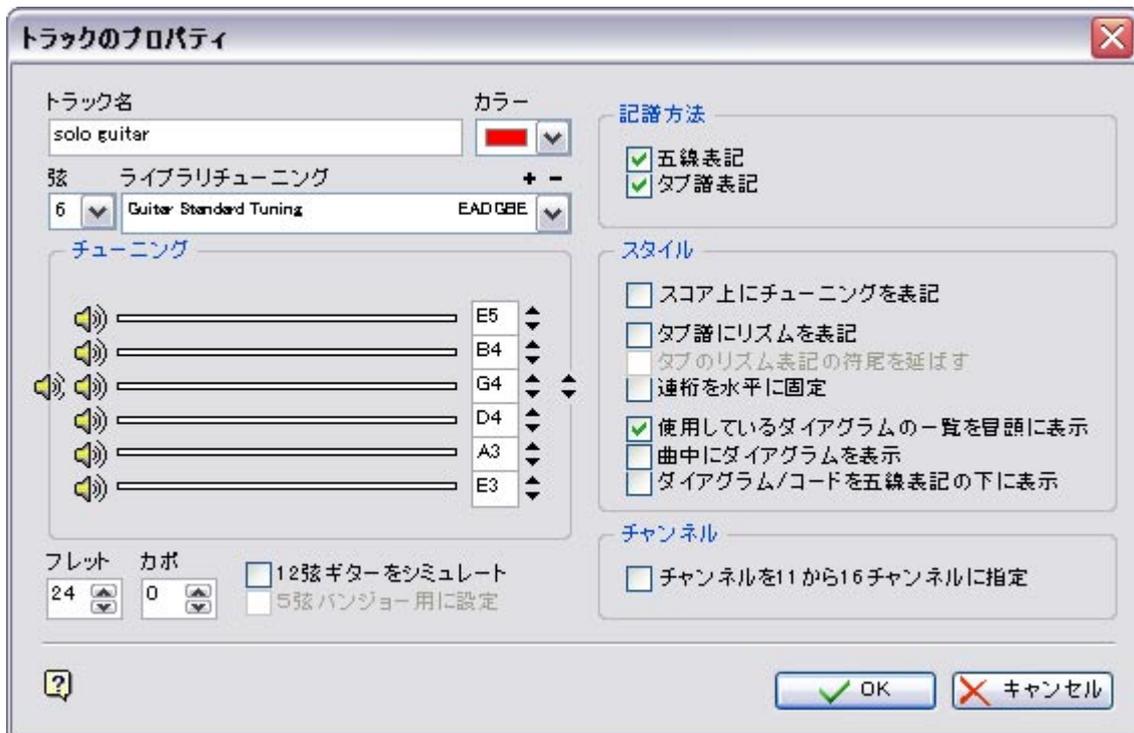
これで **スコア** に入力する準備ができました。また新しい **トラック** を **スコア** に追加することもできます。

パートの追加

Guitar Pro では一度に256トラックを使用することが可能です。トラックは2種類あります。

- 楽器 (guitar, bass, piano, ...)
- パーカッション - 打楽器

新しいトラックを追加するにはメニューの  **トラック** > **追加** を選択します。トラックの種類とスコアのどの位置にトラックを追加するかを選び、OK ボタンを押して次へ進みます。



トラックの設定をするために「トラックのプロパティ」ウィンドウが開きます。

設定する項目は以下の通りです。

- トラック名
- グローバル表示でのトラックの色
- 弦の数
- あらかじめプリセットされたライブラリーからチューニングを選択
(+/- ボタンでと ボタンでライブラリーの変更が可能です。)
- チューニングの変更
- フレット番号
- カポの位置 (設定値が0の場合カポ無し)
- 12弦ギターオプション
- 5弦バンジョーオプション (この弦は6フレットから始まります。)
- 普通五線表記
- タブ譜表記
- チューニングの表記
- タブ譜表示時のリズム表記
- コードダイアグラムとコードネームの表示

各トラックのオーディオ設定は楽器ウィンドウで行います。

トラックを追加すると自動的に空小節が追加されます。Guitar Proでは各トラックの小節数は同じになります。

トラックを削除したい場合はメニューから  **トラック > 削除** を選択します。

メニューから  **トラック > 上へ移動/下へ移動** を選ぶとトラックの位置を上下に移動できます。

パーカッションパートの詳細は [パーカッション](#) の項目をご参照ください。

 **参考** : すでに作成されているトラックの弦の数を変更したい場合、Guitar Proは新しい設定に移調することができます。このユニークな機能によってバンジョーのトラックに入力した音符をギターパート用に変換することが可能です。

小節について

Guitar Proではすべてのトラックの各小節が同じ設定になります。そのため例えばトラック1とトラック2では同じ拍子記号になります。リピートマーク (反復記号) を付けた場合、すべてのトラックにリピートマークが入力されます。

一般的なスコアの音楽的ルールが維持され、スコアのプレイバック (再生) も満足の得られる結果となることでしょう。

その一方で、完全に各トラックの設定をする必要があります。100小節のギタートラックが鳴っている間、1小節のパーカッショントラックをループさせて再生することなどはできません。その場合、その1小節のパーカッションループをコピー/ペーストすることによって100小節分複製を楽譜に入力する必要があります。

メニューから  **編集 > 小節を挿入 (Mac : 挿入)** または  **編集 > カット** を選択し、小節を挿入、または削除することができます。1つのトラックのみで強制的に小節を挿入または削除したい場合は [カット/コピー/ペーストを使う](#) の項目をご参照ください。

メニューから  **編集 > 小説の内容を消去 (Mac : クリア)** を選択することによって、選択されているパートまたはすべてのパートの小節内に入力されている音符などの各項目をすべて削除し空にすることができます。

小節線

Guitar Proは自動的に小節線を引きます。

編集カーソルを右方向へ移動させると、現在編集している小節の長さが設定されている拍子記号（例えば4拍の場合 4/4 拍子、[楽譜を理解する](#)を参照）に従って自動的に変更されます。もしその小節の拍数すべてに音符が入力されていない場合、Guitar Proは新しい拍をその前に使用されていた音価で作成します。

もしその小節に設定された拍数に満たない、または超える場合、Guitar Proは（この小節が編集中の場合を除いて）この小節を赤色で表示します。

ステータスバーは有効になっている小節の実際の長さ、小節内に拍数分音符/休符が入力されているか  /小節の拍数より短いか  長いか  を示しそれらの長さやシンボルを表示します。

メニューの  **小節 > 複縦線** を選択することで選択されている小節の右小節線を複縦線（2本線）にすることができます。複縦線はスコア上で新しいセクションが始まることを意味し下記に説明するようなりピート（反復記号）のようにプレイバックには影響しません。

小節を自由に設定する

ページまたは巻紙モードで表示している時、各段の小節数を決め配置することができます。これをするにはメニューから  **小節 > 段の改行 > 強制的に改段する**（選択した次の小節から下の段へ改行）と  **小節 > 段の改行 > ここでは改行しない**（改行を防ぐ）の2項目を使用し設定します。メニューの **小節 > 段の改行 > 小節の配置をリセット** を選択することで段の改行情報をリセットし、Guitar Proによって自動的に改行が行われます。

改行機能は選択されているパートのみに反映される設定と、マルチトラック表示で反映される設定が個別にできます。そのため各パートの小節の設定を異なるようにアレンジしマルチトラック表示用に別の設定をすることが可能です。

スコアの最終小節には改行情報を追加し最終小節ということを確認します。（メニューの **小節 > 段の改行 > 強制的に改段する** で改行情報を追加していない場合、最終小節の右側に新規の小節が表示されてしまいます。）

リピート（反復記号）/反復括弧/曲進行設定

メニューの **||** 小節 > 終了反復小節線 を選択すると選択されている小節の最後に終了反復小節線が入力され設定したリピート回数が右反復記号のところに表示されます。終了反復小節線はスコアが指定された開始反復小節線まで進行し設定された回数分演奏するための記号です。

このメニューはつねに **||** 小節 > 開始反復小節線 と併用されます。

The image shows a musical staff in 4/4 time with a repeat sign at the beginning. The melody consists of three measures: a quarter note G4, a quarter note A4, and a quarter note B4. The guitar tablature below the staff shows the fret numbers for each note: 0, 3, 5, 7, 3, 5, 7, 0, 0. The first measure is highlighted with a yellow box.

小節の演奏順は 1 - 2 - 1 - 2 - 3 です。

メニューから **||** 小節 > 反復記号括弧 を選択すると選択されている小節の最初に反復記号括弧が追加されます。反復記号括弧はその小節を何回目に演奏するかを表す記号です。このメニューはリピート（反復記号）と併用されます。

The image shows a musical staff in 4/4 time with a repeat sign at the beginning. The melody consists of three measures: a quarter note G4, a quarter note A4, and a quarter note B4. The guitar tablature below the staff shows the fret numbers for each note: 0, 3, 5, 7, 3, 5, 7, 0, 0. The first measure is highlighted with a yellow box. The first ending is marked with a first ending bracket and the second ending with a second ending bracket.

小節の演奏順は 1 - 2 - 1 - 3 です。

メニューから **Ⓢ** 小節 > 文字反復記号 を選択すると Coda（コーダ）、Double Coda（ダブルコーダ）、Segno（セーニョ）、Segno Segno（ダブルセーニョ）、Fine（フィーネ）や14もの異なる進行設定を追加することができます。

拍子記号、調号、シャッフル・ビートを途中で変更したい場合：

メニューから **♯♯** 小節 > 調号 または **♩** 小節 > 拍子記号 または **♩** 小節 > スウィング・フィール を選択し、曲の冒頭から設定するだけでなく、途中の小節を選択してから行くと曲中で拍子記号、調号、シャッフル・ビートの変更もできます。

音符の入力

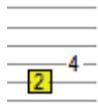
Guitar Proではタブ譜または五線譜に音符を入力することができます。音符をタブ譜か五線譜のどちらかの楽譜に入れると自動的にもう片方にも音符が入ります。

編集カーソルは黄色い四角で表示されます。音符を入力するとそれに対応した音符がもう片方の譜線に灰色の四角囲まれた音で表示されます。



コンピュータキーボードのTABキーはタブ譜と五線譜の切り替えスイッチとして使用します。

参考:    ボタンは、音を弦間で音程を変えずに移動できます。このショートカットは五線譜で入力している時でもタブ譜の数字を弦移動することができるので、タブ譜の弦移動をするために、五線譜からタブ譜へ切り替えることなく作業できます。



スコアをクリックしても何の音符も入力されませんが、音符を入力する位置を表す編集カーソルを移動します。そのため間違ってもスコアをクリックしても音符が入力されてしまうことはありません。

スコアに音符を入力するにはいくつかの方法があります：

• キーボード入力

- 入力をコンピュータキーボードのテンキーで行うことができます。
- 矢印キーでスコア上の編集カーソルを移動します。
- 数字キーで音符を選びます。
- + (プラス) と - (マイナス) キーで音符の長さを変更します。
- Enter キーで音符を入力し、Delete キーで音符を削除します。

さらに詳しい情報は[キーボードショートカット](#)を参照してください。

• マウス入力

- メニューの  **表示** > **フレットボード** を選択しギターフレットボードを表示させます。
- タブ譜の上で右クリックしポップアップメニューが表示されるので音符を選択しサブメニューの 0 から30の数字でフレット番号を選び入力します。
- フレットボードの上の  と  ボタンは編集カーソルをスコア上で移動する際に使用します。
- 音符の長さ      はノーテーションパレットから選びます。
- メニューの **音符** > **拍を挿入** とメニューの **音符** > **拍を削除** を選択することで音符の挿入と削除を行います。

さらに詳しい情報は[フレットボード - キーボード](#)を参照してください。

• MIDI 入力

メニューの  **サウンド** > **MIDI入力デバイスを使用** を選択しMIDIキーボードやMIDIギターなどの外部MIDI機器を使用して一音ずつスコアに入力する機能が使えるようになります。メニューから  **オプション** > **オーディオ設定 (Mac : Guitar Pro > 環境設定)** を選択しMIDIセットアップダイアログボックスでMIDI入力デバイスを設定し入力を開始します。コンピュータキーボードとマウスによる音符入力の併用も可能です。

MIDI機器で演奏された音符はスコア上の現在編集カーソルのある拍に追加されます。それから編集カーソルを右矢印キーで次の拍へ移動します。そのため音価はあらかじめ手動で設定されている必要があります。

 **参考** : MIDI入力した最後の音符上に編集カーソルがある場合に音価を変更すると、小節線が間違った場所で区切られてしまうことがあります。この場合、小節配置ツールで修正することができます。

さらに詳しい情報は[サウンドの設定](#)を参照してください。

ファイルをインポートする

メニューから  **ファイル** > **インポート** > **MIDI/ASCII/PowerTab/TabEdit** を選択することで他のアプリケーションで作成した音楽ファイルをGuitar Proに取り込むことができます。

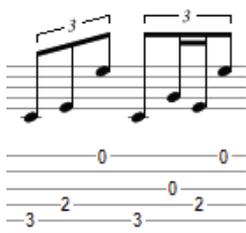
さらに詳しい情報は[スタンダードMIDIファイルのインポート - ASCIIフォーマットファイルのインポート - PowerTabフォーマットファイルのインポート \(Windows版のみ\) - TabEditフォーマットファイルのインポート \(Windows版のみ\)](#) を参照してください。

 **参考** : [C] を押すことによって編集カーソルで選択されている拍の音符がコピーされます。この機能を使うと入力が大変なArpeggio (アルペジオ) も簡単に入力することができます。

以下のいくつかの項目は音符を入力する上で重要な操作方法です。

連符の入力 :

音符をまとめるには各拍を何連符にするかの数字を設定するだけです。Guitar Proでは連符にしたい音符を複数選択 (ドラッグして範囲を指定) 後、連符の数字を設定するだけで自動的に連符が接続され指定した数字の連符になります。



連符の数字はメニューの **音符** > **音価 [+/-]** を選択し現れるメニューの○○連符の項目から設定するかツールバーの連符ボタンを使用し設定してください。

連符についてのさらに詳しい情報は[楽譜を理解する](#)を参照してください。

タイ :

タイは演奏されない音符です。前の音符の長さがタイで接続された次の音符の長さ分長く演奏されることを示す記号です。タイは五線譜には表示されますがタブ譜には表示されません。

同じ弦にある2つの音符の、2つ目の音符上に編集カーソルを移動し、メニューの  **音符 > 音符にタイをつける** 選ぶと音符にタイが付きます。

メニューの  **音符 > 拍にタイを付ける** を選ぶと前の音符のすべての音符にタイをつけることができます。

メニューの **音符 > サウンドの長さ** を選択すると音価を実際にプレイバックで鳴らしたい音符の長さに個別に設定することができます。このサウンドの長さ（プレイバック用の音の長さ）は楽譜上の音価のパーセントで表現されます。

 **五線譜に臨時記号（シャープ、フラット、ナチュラル）を入力するには：**

五線譜に臨時記号を追加/削除するにはメニューの  **音符 > 半音上げる** を選ぶことで半音上げ、メニューの  **音符 > 半音下げる** で半音下げることができます。

臨時記号は設定されている調号に従って自動的に楽譜上に追加されます。

 **リズム表記：**

Guitar Proは入力された音価と拍子記号に従って、自動的にリズムと符尾の向きを設定します。しかし、手動で連桁や符尾の向きを変更することがメニューの **音符 > 符尾の向きを反転** からできます。

ボイス（複声部）：

Guitar Proでは2つの声部（リードとベース）を入力することができます。複声部は別々に入力する必要があります。メニューから  **編集 > 声部 > 声部1を編集[リード]** を選択することでLead（メロディーライン）、 **編集 > 声部 > 声部を編集[ベース]** を選ぶことでBass（ベースライン）を編集する声部として選ぶことができます。メニューから  **編集 > 声部 > 編集対象外の声部をグレー表示** を選ぶと現在編集していない声部の音符を薄い灰色で表示させることができます。

 **複数選択**

複数選択は音符や小節の集まりを一度に選択する機能です。[Ctrl]（Mac : Command）を押しながら小節をクリックすると、その小節が選択されます。[Ctrl]（Mac : Command）+[Shift]を押しながら選択したい複数小節をクリックすると、その範囲で複数小節が選択されます。複数選択は完全小節を選択した場合、両方の複声部が選択されます。それ以外の場合は現在選ばれている声部が選択されます。

 **参考：**メニューの  **オプション > 環境設定** を選択し現れる画面で**一般**タブで何か編集を加えると自動的にファイルに保存することができます。この保存はテンポラリーファイル（一時的な保存ファイル）として保存されるのでGuitar Proが予期しない理由で終了してしまった際にそのファイルを開くことで編集していた状態に戻すことができます。

 **参考：**メニューの  **オプション > 環境設定** の**一般**タブで**アンドゥ/リドゥ機能**を使用するか設定できます。この機能が有効になっていると古いコンピューターでは動作が遅くなる場合があります。

シンボルをスコアに入力する

Guitar Proは特にギターに適した様々な奏法を示す記号を入力することができます。それらの記号の多くはスコアを演奏する際に使用されるものです。

Let Ring、パームミュートのような各記号が表す奏法の効果はプレイバック（再生時）でも再現されます。

以下の楽譜シンボルが**音符メニュー**と**奏法効果メニュー**から選択入力できる項目です。

ダイナミクス	強めのアクセント	トレモロアーム
装飾音符	デッドノート	スライド
スタッカート	Let Ring (レット・リング) 弦を鳴らした後でフレットを押さえ続け、鳴らした音の響きを継続させる奏法	ビブラート
フェードイン	ナチュラル・ハーモニクス	ワイドビブラート
左手のフィンガリング	人工ハーモニクス	トリル
右手のフィンガリング	タッピング	トレモロピッキング
ストローク	スラッピング =チョッパー奏法	パームミュート
ピックストローク	ポッピング奏法	テキスト - 文字
ゴーストノート	ハンマリングオン/ プリングオフ	コード
アクセント	バンド・チョーキング	ワウペダル

• **ダイナミック**

このオプションは音符音の強弱を設定することができます。

ボタンは< **ppp** ピアノ・ピアニッシモ > から < **fff** フォルテ・フォルティッシモ > まで各音のダイナミクスを選択することができます。

メニューの**音符 > ダイナミクス > 和音にも適用**を選択するとすべてのコードに対してダイナミクスを付けることができるのでコードトーン1つ1つに対して設定をする必要はありません。

ダイナミクスはメニューの**表示 > ダイナミクスを音符の濃淡で表示**を選択することで音符の色の濃さでダイナミクスが識別できるようになっています。薄い色は弱く、濃い色は強い音を表します。

メニューの**ツール > ダイナミクス・オプション**は各弦のダイナミックを、選択した小節の範囲で一度に変更することができます。

• 装飾音符

装飾音符は演奏したい音符の前で非常に短い音の長さで演奏され、その音を装飾する音符のことです。Guitar Proは装飾音符を各弦に対して追加することができますが、複数の装飾音符を同じ弦上に設定することはできません。装飾音符は小節の長さとリズムのカウントには含まれません。

装飾音符ウィンドウで以下の選択ができます。

- 装飾音符の音程
- 装飾音符の位置 - 前か後ろか？
- 装飾音符の長さ
- 装飾音符の強弱
- どのように装飾音符と次の音まで演奏される際の奏法の種類。Slide、Bend等

• スタッカート

スタッカートはとても短い音符を示します。スコアに入力されている音符の長さには関係していません。音符の上に黒い点で表記されます。

• フェード・イン

フェード・インはコードすべてと音符の音量が無音の状態から徐々に上げる奏法です。これはエレクトリックギターの本体のボリュームポッドまたはダイナミクスペダルを使用することでできます。

• 左手のフィンガリング

左手のフィンガリング（右利きの場合）はフレットボード上の弦を押さえる指を表します。"T" は親指、"1"は人差し指、"2"は中指…を示します。

左手のフィンガリングはタブ譜の下に丸で囲われた指番号で表示されます。

• 右手のフィンガリング

右手のフィンガリング（右利きの場合）は指弾きの際に弦を弾く指を表します。"T" は親指 "I"は人差し指、"M"は中指…を示します。

右手のフィンガリングはタブ譜の下に指番号で表示されます。

• ストローク

ストロークは一度にすべての弦を同時に弾くのではなくピッキングします。ダウンストロークは低音弦から高音弦に向かってピッキングし、アップストロークは高音弦から低音弦に向かってピッキングします。

ストロークウィンドウはストロークの長さを設定する項目です。音価はストロークされる音符の長さよりも短めに設定する必要があります。

ストロークウィンドウのチェックボックスで**かき鳴らし (rasgueado)** を設定することができます。Rasgueadoはフラメンコギターのテクニックでピッキングする手のいくつかの指で継続的に弦をかき鳴らす奏法です。"R"の文字がストロークの矢印の下に表示されます。

• ピックストローク

ピックストロークはピッキングする方向を示します。"V"は音の低い弦から高い弦に上向きへの動きを表します。

- **ゴーストノート** 

ゴーストノートは弱い音です。プレイバック時に自動的に音量が小さくなります。タブ譜の数字が括弧で囲われた表示になります。

- **アクセント** 

ゴーストノートとは正反対にアクセントは強く演奏されます。アクセントは自動的にプレイバック時にダイナミクスが大きくなります。

- **強めのアクセント** 

強めのアクセントはアクセントよりも大きな音量で演奏されます。

- **デッドノート** 

デッドノートは短く、ゴーストノートに比べて聞こえるか聞こえないかというくらい弱い音です。Guitarでは特にリズム効果として使用されます。デッドノートはピッキングしている手のひらをブリッジの近くの弦に軽く乗せるか、フレットボードを押さえている手で弦を押さえずに触れている状態でピッキングし演奏されます。

- **Let Ring (レット・リング - 弦を鳴らした後でフレットを押さえ続け、鳴らした音の響きを継続される奏法) [I]** 

Let ring (レット・リング) 効果は普通よりももっと弦の響きを継続させる奏法です。これはしばしばアルペジオで使用されます。

メニューの**ツール > Let Ring オプション**メニューから小節範囲を指定して各弦の let ring 効果を設定できます。

- **ナチュラル・ハーモニクス** 

ナチュラル・ハーモニクスは開放弦を演奏する際にフレットボードを押さえる手の指で軽くフレットの上に触れピッキングする奏法です。フレットの上に触れている指はピッキングされると同時に離れません。5th, 7th と 12th フレットのハーモニクスが一般的によく使われますが、他のフレットのハーモニクスは効果を出すのにテクニックを要します。

- **人工ハーモニクス** 

いくつかのハーモニクスが考えられます。

A.H. - 人工ハーモニクス

人工ハーモニクスは、フレットボードを押さえる手は普通に鳴らしたい音のフレットを押さえ、ピッキングするほうの手の人差し指で押さえているフレットから数フレット高いフレット上に触れて演奏されます。ピッキングするほうの手はフレットに触れると同時にピッキングもしなければならないのでとても難しい奏法です。

T.H. - タッピング・ハーモニクス

タッピング・ハーモニクスは押さえているフレットの数フレット上で弦を素早く叩いて作り出す人工ハーモニクスです。

P.H. - ピッキング・ハーモニクス

ピッキング・ハーモニクスはピックを持っている手の親指を軽く弦に押し当てて、ピッキングすることで親指がハーモニクス・ポイントに触れ作り出されるハーモニクスです。このハーモニクスはディストーションサウンドの時に一番効果を得やすい奏法です。

S.H. - セミ・ハーモニクス

セミ・ハーモニクスはピッキング・ハーモニクスと似ていますがそれに加えて弦が自然に鳴っている響きがハーモニクス音に混ざっています。

• タッピング

タッピングは左手または右手（または両手）の指でフレットを叩き押さえ音を鳴らす奏法です。そのため弦はピッキングせずにフレットを叩き押さえることで演奏されます。

"T"の記号はタッピング奏法を示すためにタブ譜の上に表示されます。コードに対してタッピング効果を入力した場合、Guitar Proはプレイバックにこの効果を反映させません。

• スラッピング/チョッパー奏法 - Thumb

スラッピング/チョッパー奏法はピックで弦を弾く（または指で弾く）ほうの手の手首を回転させ（手首のスナップを利用）、親指で弦を叩いてパーカッション的な音を出す奏法です。スラッピングはポッピング奏法の前に行われます（下記項目を参照）。

• ポッピング奏法 - 弦をはじく奏法 - Pull

ポッピング奏法は2本の高音弦の1本を右手の（左利きの場合は左手の）人差し指ではじいて（Pull-プルして）弦を振動させ鳴らす奏法です。ポッピング奏法はしばしばスラッピング（上記項目を参照）の後に行われる奏法です。

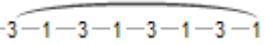
• ハンマリング・オン/プリング・オフ

ハンマリング・オン/プリング・オフは同じ弦の上で2つの音の間で使用される奏法です。最初の音符は普通にピッキングで演奏され、2つ目の音符はピッキングされずに演奏されます。

ハンマリング・オンは2つ目の音符が弦上で最初の音符よりも音程（フレット）が高い場合、最初の音を押さえたまま2つ目の音符を押さえる指でそのフレットを叩いて押さえ音を鳴らす奏法です。

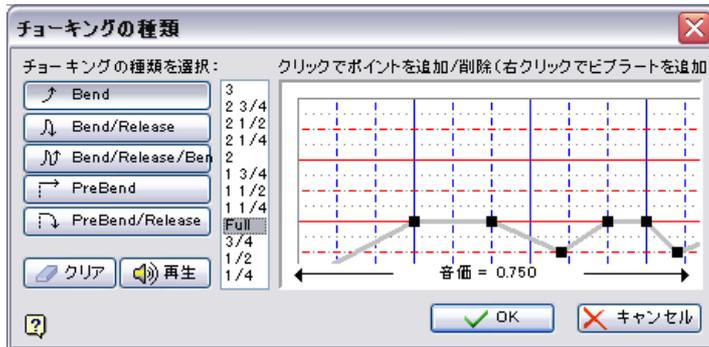
プリング・オフは2つ目の音符が弦上で最初の音符よりも音程（フレット）が低い場合、最初の音を押さえていた指で弦を弾いて、あらかじめ押さえておいた2つ目の音を鳴らす奏法です。

Guitar Proは音程によって自動的にハンマリング・オン/プリング・オフを決めて表示させます。

2つの音をつなげるのにハンマリング・オンとプリング・オフ  を使用するの是一般的です。

• ベンド/チョーキング ▶

ベンドはフレットを押さえている指をフレットボードの上方向または下方向に押し、音程を変化させる奏法です。チョーキングの種類ウィンドウでベンドのタイプを正確に設定することができます。ベンドの音程変化の値、ビブラート効果の有無などいくつかの設定項目があります。



Bend、Bend/Releaseなどのボタンはベンドのタイプ（ニュアンス）を定義する項目で、この項目はタブ譜上の表記にも反映されます。

1/4 から最大3 音ベンドまで設定できます。"Full" は全音（1 音）を意味します。この項目はタブ譜に表示されます。

ベンドのカーブはチョーキングの種類ウィンドウのグリッドをクリックすることで変更することができます。カーブの点を削除するにはその点をクリックします。右クリック（Mac : Ctrl+クリック）をするとビブラートを加えることができます。数回右クリックすることでビブラートの度合いを3段階まで変化させることができます。（灰色のラインが点線に変わり、点線がビブラートの度合いが強くなるにつれて太くなります。）ビブラート効果は1音ベンドした音に対してメニューの**奏法効果 > ビブラート**を選択することで同様の効果を得ることができます。

[サウンドの設定](#)を参照してください。

• トレモロバー /アーム ▶

トレモロバーはエレクトリック・ギターで鳴らしているすべての音のピッチを（ブリッジの角度を変化させ）変化させるために使われるアームのことです。トレモロバーはピックを持っている手で持って使います。

トレモロアームウィンドウはチョーキングの種類ウィンドウと似ています。

• スライド ▶

スライドはギターの弦を押さえている指で押さえているフレットから他のフレットの音へ指をスライド（滑らせる）させる奏法です。Guitar Proではいくつかのスライドを表現できます。

- 🔍 最初の音をピッキングし、2つ目の音へ指をスライドしピッキングしない。
- 1/3 最初の音をピッキングし、2つ目の音へ指をスライド後にその音をピッキングする。
- 2/3 鳴らしたい音まで低いフレット（適当なフレットから）から指をスライドしている間にピッキングしその音を鳴らす。
- 3/3 鳴らしたい音まで高いフレット（適当なフレット）から指をスライドしている間にピッキングしその音を鳴らす。
- 3/3 鳴らしたい音のフレットを押さえ、ピッキングした後で指を低いフレット（適当なフレット）へスライド
- 3/3 鳴らしたい音のフレットを押さえ、ピッキングした後で指を高いフレット（適当なフレット）へスライド

- **ビブラート** 

ビブラートはフレットボードを押さえている指で弦を素早く上下に動かしピッチ（音程）を変化させ音を揺らす奏法です。

ビブラートはタブ譜の上に小さな波線で表示され、その音が終わるまで続きます。

- **ワイドビブラート** 

ワイドビブラートはシンプルなビブラートよりも強めのビブラートでアームを使って演奏されます。コードに対して使用されます。

ワイドビブラートはタブ譜に次の音符が演奏される直前の位置まで大きな波線で表示されます。

- **トリル** 

トリルは素早くひとつの弦上でハンマリング・オンとプリング・オフを繰り返し2つの音符を鳴らし続ける奏法です。トリルウィンドウはトリルの2つ目の音のフレットとトリルのスピードを設定します。

この表記では五線譜には2つ目の音符は表示されないのでスコアが軽くなります。

- **トレモロピッキング** 

トレモロピッキングは1つの音をとても速く続けて演奏する奏法です。

そのためこの表記は1つの音符に対して表示されます。

- **パームミュート** 

パームミュートはギターのブリッジ近くで弦の上にピッキングをしている手を軽く乗せて、こもった音を出す奏法です。

パームミュートの効果は "PM" という表記でタブ譜の上に表示されます。

- **テキスト** 

Guitar Proのテキスト機能はタブ譜上に自由に文字入力ができます。

歌詞を曲に入力したい場合はメニューの  **ファイル** > **スコア情報** を選択し **歌詞** タブに入力してください ([歌詞入力参照](#))。

- **コード** 

[コードダイアグラムツール](#) の項目をご覧ください。

- **ワウペダル** 

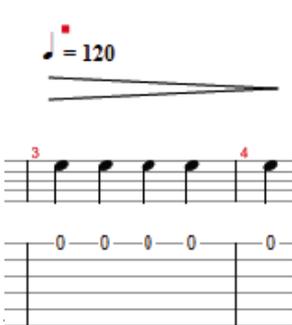
Wah-Wahはワウペダル・エフェクトです。オン/オフとOpenClosed（ペダルを開いた状態と踏んだ状態）が入力できます。RSE使用時にのみプレイバック（再生）にワウペダルの効果が反映されます。

パラメータ・チェンジを挿入する

ミックステーブルは各トラックのプレイバック時の設定を定義する項目ですが、いつでも楽譜上に（再生用の楽器、音量、パン、テンポなどの）変化情報を入力することができます。

パラメータ・チェンジは選択されているトラックに対して、またはすべてのトラックに対して反映することができます。

プレイバックの設定が変わる範囲を拍の長さでプログラムすることもできます。例えば、楽譜の終わりの部分で音量を下げたい場合は、メニューの **音符 > ミックステーブル** を開き設定変更を加えることができます。



パラメータ・チェンジはパンなど音楽記号で記せない変更値を入力した場合、楽譜の一番上に小さな赤い四角が表示されます。

参考：もし楽譜の途中からプレイバックした場合、Guitar Proは楽譜の最初からすべてのパラメータ・チェンジ情報を認識し、すぐにプレイバックにパラメータチェンジ情報を反映させます。

歌詞入力

スコアに歌詞を入力するにはメニューから  **ファイル** > **スコア情報** を選択し歌詞タブをクリックします。

Guitar Pro では歌詞を編集画面に入力し、歌詞は自動的に選択されているトラックに割り当てられます。

そのためテキストをコピー、カット、ペーストして簡単に編集作業し、各セクションごとに歌詞を整理することができます。



1 トラックの選択

歌詞を楽譜に表示させるには、まずトラックを選択します。歌詞は自動的にそのトラックに割り当てられます。Guitar Proはこれを行うために特別な割り当てを行っています。

一般的に歌詞はメロディートラックに入力されますが、歌詞を楽器トラックに入力することもできます。しかしこの場合、細かい修正を行うことになってしまいます。もし各拍に対して変わったシラブルが割り当たっていると歌詞がおかしな結果になってしまいます。メロディーがわからない場合はトラックに歌詞を入力しないことを選択することも可能です。

その場合は歌詞ウィンドウの編集画面に入力された歌詞はそのまま消えずに維持されます。

2 歌詞の番号

歌詞は1番から5番まで入力することができます。それらの行は上から順番に選択されたトラックの下に表示されます。

3 歌詞の開始小節

各歌詞番号の歌詞が何小節目から始まるかを設定できます。そのため歌詞が始まる場所でスペースを挿入する必要はありません。

4 歌詞編集

編集画面に歌詞を入力することができます。

Guitar Proは自動的にシラブルを異なった拍に割り当てます。シラブルの変更は**SPACE** (スペース) または**DASH** (ダッシュ) (-)が入力されているところで認識されます。単語を各シラブルに分けるには、ダッシュを入力してください。もしGuitar Proに2つの単語を分けさせたくない場合、**プラス** (+)を入力してください。歌詞を拍に割り当てたくない場合は単にいくつかのSPACE (スペース) またはDASH (ダッシュ) (-)を入力してください。

改行はスペースとして認識されますが、数行の改行は1つのスペースのみとして認識されます。したがって問題なく文字の編集をすることができます。

四角い括弧 ([]) で囲われた文字は楽譜上には表示されません。四角い括弧の中にはコメントやセクションの名前 ("INTRO" (イントロ)、"REFRAIN" (リフ) …など) を加えるのに便利です。

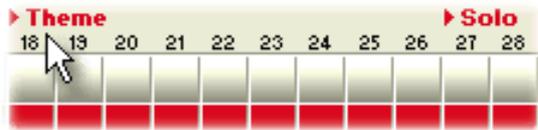
編集画面の上の    カット、コピー、ペーストボタンは文字の編集に使用することができます。

 **注意**：もし歌詞が入力されているトラックの音符に変更を加えた場合、Guitar Proに音符が変更された場所を再計算し歌詞を割り当て直させるために歌詞ウィンドウに戻ってOKボタンを押す必要があります。

マーカーを追加する

マーカーはグローバル表示の際にイントロ、ソロ、コーラスのようなスコアのいろいろなセクションを視覚的にわかるようにした印です。

マーカーはトラックに対してではなく小節に対してリンクされ、いくつかの色で表示させることができます。



マーカーを加えるには2通りの方法があります。

- グローバル表示のマーカーゾーンを**ダブルクリック**します。
- メニューの  **マーカー > 挿入** を選択します。

メニューの  **マーカー > リスト** を選択すると表示されるウィンドウでマーカーの編集が可能です。

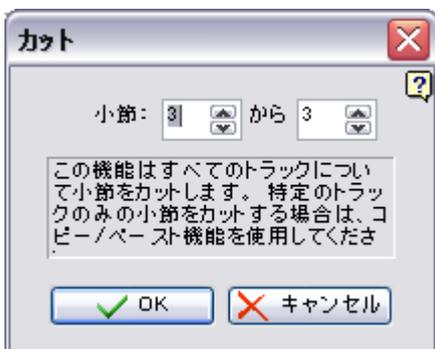


カット/コピー/ペーストを使う

Guitar Proのカット/コピー/ペースト機能を使用して小節内の音符を複数選択してカット/コピー/ペーストした場合、選択した音符がカット/コピー/ペーストされます。それ以外の場合は小節全体がカット/コピー/ペーストされます。

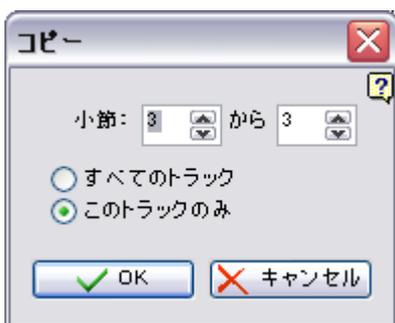
• 小節をカットする

メニューの  **編集** > **カット** を選択することで1小節またはすべてのトラックの複数小節をカットすることができます。



• 小節をコピーする

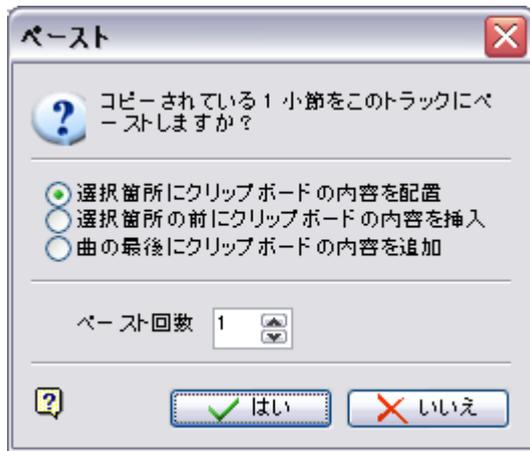
メニューの  **編集** > **コピー** を選択することですべてのトラックまたは選択されているトラックの1小節または複数小節をコピーすることができます。



• 小節にペーストする

メニューの  **編集** > **ペースト** を選択するとコピーまたはカットしてあった小節がペーストされます。もし複数小節がコピーされていた場合、ペースト機能はすべてのトラックまたは1つのトラックにペーストするかを選択できます。もし1つのトラックをコピー/ペーストしたい場合、コピー元のトラックとペースト先のトラックの弦の数が同じである必要があります。

ペーストする際に、既存の音符とコピーした音符を置き換えるか、小節を挿入するか、曲の最後にペーストするかを選択できます。また素早く1小節をパート全体にコピーするために何回ペーストをするか設定できます（パーカッショントラックに便利な機能です）。



✚ トラックを追加/挿入または削除するには？

Guitar Pro では音楽的なルールに従って、あるトラックのみ小節を追加/挿入または削除することはできません。なぜならすべてのトラックに小節があるからです。(小節についてを参照) もし最初のトラックの5小節目を削除し、10小節目には拍子記号を入力している場合に問題が起こります。最初のトラックの拍子記号は5小節目が削除されたために10小節目から9小節目に変わってしまいます。このような問題は小節を挿入する際にも同様に起こります。

もし1つのトラックの小節を追加/挿入または削除する必要がある場合、コピー/ペースト機能を以下のように使わなければなりません。

• 選択されているパートの10小節目前に小節を追加する

- 1 10小節目に移動します。
- 2 メニューの **編集** > **コピー** を選択します。10小節目から最後の小節までの範囲を選択し OK を押します。
- 3 11小節目に移動します。
- 4 メニューから **編集** > **ペースト** を選択します。はいを押します。
- 5 10小節目に移動します。
- 6 メニューより **編集** > **小節の内容を消去 (Mac : クリア)** を選択し OK をクリックします。
複数小節を挿入したい場合、この方法を使います。

• 選択されているパートの10小節目を削除する

- 1 11小節目に移動します。
- 2 メニューより **編集** > **コピー** を選択します。11小節目から最後の小節までの範囲を選択し OK を押します。
- 3 10小節目に移動します。
- 4 メニューから **編集** > **ペースト** を選択します。はいを押します。
- 5 最後の小節に移動します。
- 6 メニューより **編集** > **小節の内容を消去 (Mac : クリア)** を選択し OK をクリックします。
複数小節を削除したい場合、この方法を使います。

参考 : Guitar Proでは2つのファイルを同時に開いてファイル間でパートからパートへのカット/コピー/ペーストを行うことも可能です。

ウィザードを使用する

Guitar Proにはユーザーが楽譜を早く作成することができるように多くのウィザードが用意されています。これらのウィザードはメニューのツールから選択できます。

各ウィザードの内容は以下の通りです。

- **Let Ringオプション**

Let Ring オプションは各弦の特定の小節範囲や音に対してLet Ring奏法の設定をする項目です。

- **パームミュートオプション**

Palm Mute オプションは各弦の特定の小節範囲や音に対してパームミュート奏法の設定をする項目です。

- **ダイナミクスオプション - 強弱設定**

Dynamic オプションは各弦の特定の小節範囲や音に対してダイナミクスの設定をする項目です。

ダイナミクスの設定を視覚的に確認するにはメニューから**表示 > ダイナミクスを音符の濃淡で表示**を選択します。音符が暗めから明るめの色で表示されます。色の濃い音符ほど音が強い（大きい）ことを意味します。

ウィザードを使用することに作業効率が上がります。例えばGuitar ProにLet Ringの機能を1, 2, 3弦のすべての音に対して働かせるようなことも簡単に設定できるわけです。



楽譜を整えるためのウィザード：

- **小節配置**

音楽的に正しい位置に小節が表示されるように小節を再配置します。

- **小節内の拍数を休符で埋めて（または休符を削除して）完全小節にする**

小節内の音符が拍数より短い小節（または空の小節）を休符で埋め、長い小節は拍数を越える休符を削除して自動的に小節を完全小節にします。

- **自動運指ポジション設定**

メロディーを変えずに簡単なコードの押さえ方やフィンガリングができるようにタブ譜のフィンガリングを自動的に再配置します。

これらのウィザードは作曲している際にファイルをインポートする場合、または五線譜に音符を入力した際にタブ譜で一番演奏しやすいフィンガリングで表示させたい場合に便利です。

その他のウィザード：

- **トランスポーズ - 移調**

選択したパートまたはすべてのパートを半音単位で移調することができます。

注意：この機能はコードダイアグラムには使えません。

- **小節の拍数をチェック**

楽譜全体の小節を検索し拍数が正しいかどうかチェックします。

パーカッション

Guitar Proのパーカッショントラックは特別なトラックです。

パーカッショントラックを追加するにはメニューの **トラック > 追加** を選択しパーカッションを選択します。

パーカッションはMIDIの仕様によりMIDIチャンネルの **10チャンネル** に設定されます。 **ミックステーブル** で **ドラムセット** の音色を選ぶことができます。多くのサウンドカードでは1つのドラムキットのみ使用可能です。

Guitarトラックと同様に音符を入力します。タブ譜上の各弦の数字はフレットナンバーではなくパーカッションのMIDI音色ナンバーを表します。

弦の選択は重要ではなく、一度に6つまでの（タブ譜の各弦につき1音）異なる音色を再生することができます。五線譜はパーカッションの記譜で表示されます。

Guitar Proはパーカッションの入力を簡単にできるようにデザインされています。この機能を使用するにはメニューの  **表示 (Mac : ウィンドウ) > パーカッション** を選択します。この機能は選択されているパーカッショントラックの入力を手助けします。

パーカッションアシスタントを使用する



各音色をモニターしたい場合は①内の数字（パーカッション名）をクリックします。音を追加したい場合は追加したいパーカッションの数字（パーカッション名）をダブルクリックします。

2種類のパーカッション音（Closed Hi - HatとOpen Hi Hat等）を同じ位置に表示する場合は②の五線に描かれた音を選択しクリック入力することもできます。**可能な場合はエレクトリック・サウンドを使用** チェックボックスは Guitar Proにエレクトリックなサウンドを選ばせることができます。

 **注意：**いくつかのサウンドカードは 35 番から 82 番の音色のみしか発音できません。もしその範囲外の音を選んだ場合、音が鳴りません。そのため他のユーザーが楽譜通りに再生音を聞けるようにしたい場合はこの範囲内でパーカッションパートを入力するようにします。

楽譜作業

タブ譜を探す

Guitar Pro ファイル :

Guitar Pro ファイルは以下の拡張子で認識されます。

.GTP (1.x と2.x バージョン)

.GP3 (3.x バージョン)

.GP4 (4.x バージョン)

.GP5 (5.x バージョン)

ファイルのバージョンが何であれ Guitar Pro 5はすべてのバージョンのファイルを開くことができます。

Guitar Pro ファイル開くにはメニューの📁 **ファイル > 開く** を選択します。メニューの開くまたはツールバーの開くボタンの右横の下向きの矢印▼の部分をクリックすると、最近開いたファイルのリストから開きたいファイルを選ぶこともできます。

コンピューター上の Guitar Pro ファイルを検索する

コンピューター上の Guitar Pro ファイルを検索したい場合、メニューの🔍 **ファイル > ブラウザ** を選択します。



ブラウザウィンドウ左上の🔍 検索ボタン (Mac : サブフォルダをスキャンボタン) は選択されているフォルダ内のサブフォルダ内も検索するので、ハードディスクを選択すれば、その中のすべてのファイルを見つけワンクリックでそれらのファイルを再生させることができます。

▶ 再生ボタンは選択されたファイルを再生させることができます。次のファイルへ飛ぶ前に再生する小節数を設定することも可能です。

インターネット上でGuitar Proファイルを検索する

メニューの **ファイル > WEBを検索** を選択するとインターネット上のGuitar Proファイルの検索ができます。この機能を使用するにはお使いのコンピューターをインターネットに接続する必要があります。



この機能を使用するには上図①の欄に簡単なキーワード ("Satriani" や "Elise" など) を入力し②のリストの検索サイトの1つを選び検索ボタンをクリックします。Guitar Proは自動的に選択されたサイトの検索結果をインターネットブラウザで開きます。

検索サイトのリストを更新 ボタンを押すとGuitar Proサイトにアクセスし、最新のGuitar Proのパートナーサイトのリストにアップデートします。

インターネットのタブ譜サイトで多くのGuitar Proファイルがダウンロードできます。GoogleやYahooなどの検索サイトはGuitar Proの検索では見つからない他のタブ譜サイトを検索するのに役立つかと思います。

 **警告:** インターネットでファイルをダウンロードしたりアップロードする場合、このファイルが著作権の侵害に当たらないか確認する必要があります。Guitar Proの検索機能で検索されるパートナーサイトのファイルについてカメオインタラクティブおよびArobas Music社では一切の責任を負いません。

Windows版でダウンロードで不具合が生じた場合:

Microsoft Internet Explorer®を使用してファイルダウンロードをする場合、ダウンロード終了時にそのファイルを開くかコンピューターに保存するか確認するためのメッセージが出ます。チェックボックスでダウンロードの都度いつも同じ動作(開く、または保存する)をするように設定できます。もし実行するを選びチェックボックスをクリックを入れるとダウンロード終了後、どのファイルも自動的にGuitar Proに開かれますが、今度はファイルをハードディスクに保存したい時に保存できずファイルが開かれてしまうという問題が起きます(それらはWindows®のtemporaryフォルダに保存されています)。

この場合、以下の手順によって再びファイルを保存できるように設定します。

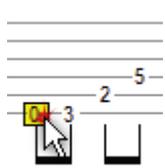
- 1 Windows®エクスプローラーを開き、メニュー (T) > フォルダオプション(O) を選択します。
- 2 **ファイルの種類**のタブをクリックします。
- 3 **.GTP, .GP3, .GP4, .GP5**の拡張子を選択し削除ボタンをクリックします。
- 4 **OK**ボタンを押してこのウィンドウを閉じます。
- 5 Guitar Proを再起動します。これはGuitar Proへの拡張子を再度反映させ、Microsoft Internet Explorer®のデフォルトの設定を解除します。

このようにしてからファイルをダウンロードすると、ダウンロード終了時にファイルを開くか、またはコンピューターに保存するかを確認するためのMicrosoft Internet Explorer®のメッセージが出ます。

楽譜内を移動する

楽譜内で移動するためにはいくつかの方法があります。

- 楽譜をクリックする



編集カーソルを編集したい場所に合わせて楽譜をクリックします。再生中にクリックすると停止せずにクリックした場所から、再生を再スタートすることもできます。

- メニューとツールバーを使用する



小節とトラックメニューによって楽譜を移動することができます。



トラックツールバーでトラック間を移動できます。

- ミックステーブルを使用する



特定のトラックを見るにはミックステーブル内のそのトラックの名前または数字をクリックします。編集カーソルは現在の小節の最初の拍またはそのとき再生されていた拍に表示されます。

- グローバル表示を使用する



特定のトラックと小節に移動するにはグローバル表示の移動先のボックスをクリックします。

- マーカーを使用する



マーカーは楽譜上の各セクション間をととても素早く移動することができます。マーカーでの移動ではマーカー・ツールバーボタン、マーカーメニューまたはキーボードショートカットを使用できます。

- キーボードを使用する

キーボードショートカットによって楽譜上を簡単に移動することができます。

ディスプレイ設定

Guitar Proを活用するにはディスプレイの設定が重要です。

スクリーンモードにはメニューの  **表示 > 縦スクロール・モード** (垂直スクリーンモード) とメニューの  **表示 > 横スクロール・モード** (水平スクリーンモード) があります。Guitar Proは小節のサイズを自動調節することや、その五線に何小節表示させるかを自動的に選択することで (縦スクロール・モード選択時に) 編集画面全体を使用します。これにより、印刷時にしか関係のない小節の配置 (レイアウト) について考慮する必要がなくなり、一番使いやすい状態に表示させて作業を進めることができます。

スクリーンの表示を設定する

Guitar Proにはたくさんのツールがありますが、メニューの **表示 > メニュー&ツールバー** を選択することでどのツールを表示させるか選択することができます。

ミックステーブルはサイズ変更したり非表示にすることができます。その場合、メニューの **トラック** ツールバーもしくは **キーボードショートカット** でトラックの切り替えを行います。楽譜とミックステーブルの位置はメニューの  **表示 > 表示切り替え** を選択することで入れ替えができます。

すべてのファイルの表示設定

メニューの  **表示 > ページモード**

メニューの  **表示 > 巻紙モード**

メニューの  **表示 > 縦スクロール・モード**

メニューの  **表示 > 横スクロール・モード**

上記のいずれかを選択することで楽譜がどのように表示されるかを設定できます。もし、ペーパー表示で直接作業したい場合は **ページ・モード** もしくは **巻紙モード** を使用します。巻紙モードはページの変わり目無しに楽譜を表示させます。**縦スクロール・モード** では小節の配置は自動的に行われます。**横スクロール・モード** はマルチトラック表示の時に便利です。横スクロール・モードを使用している時、メニューの  **オプション > 環境設定** で強制的にマルチトラック表示にさせることができます。(表示項目のマルチトラック表示に自動切り替えのチェックボックスにチェックを入れます。)

メニューの  **表示 > 五線表記を隠す** (五線を非表示する) と  **表示 > タブ譜を隠す** (タブ譜を非表示する) を選択することで五線やタブ譜を非表示させることができます。トラックごとに設定したい場合はメニューの  **トラック > プロパティ** で表示/非表示の設定ができます。

各ファイルの表示設定

Guitar Proは一度に1つのトラックのみ、またはすべてのトラック、またはいくつかのトラックを切り替えながら表示させることができます。メニューの  **表示 > マルチトラック表示** を選択することにより、全トラックを表示するか、個別に表示するかを切り替えられます。

マルチトラック表示が有効の時、**ミックステーブル**のトラックナンバーの隣にチェックボックス  が追加されます。チェックボックスが緑色の場合、そのトラックは表示され、赤色の場合は非表示となります。このボックスをクリックするたびにそのトラックの表示/非表示が切り替わります。選択されたトラック (編集カーソルが表示されているトラック) は常に表示されます。

メニューの  **トラック > プロパティ** はそのファイルに保存されるそのトラックの表示設定を定義することができます。記譜方法と書かれた部分の五線表記とタブ譜表記のチェックボックスにチェックを入れると選択した項目が表示されます。チェックをはずすと非表示になります。この設定は次にファイルを開いた際に同様の表示設定になるようにファイルに保存されます。

サウンドの設定

Guitar Proは楽譜を再生するためにMIDIとRSEの2種類の異なる再生方法を選択できます。

RSEサウンド

RSE [Realistic Sound Engine (リアリスティック・サウンド・エンジン)]は本物のギター、ベース、ドラムのサンプルサウンドを使用したGuitar Pro独自のオーディオテクノロジーです。その再生結果は本物の楽器演奏のようにリアルです。メニューの**サウンド > RSEを使用**でRSEの機能を有効/無効にすることができます。



楽器の音はメニューの**トラック > 楽器**がミックステーブルの楽器名をクリックすることで選択できます。1つまたはいくつかのサウンドバンクとエフェクトが各MIDIサウンドに反映されます。

RSEに関する技術情報：

FMOD Sound System (www.fmod.org)

Copyright© Firelight Technologies Pty, Ltd., 1994-2005

VST (www.steinberg.net)

VSTはSteinberg Media Technologies GmbHの登録商標です。

SimulAnalog (www.simulanalog.org)

SimulAnalog "Guitar Suite" (SimulAnalogリサーチプロジェクトより)

MIDIサウンド

 **定義**：MIDIとはMusical Instrument Digital Interface（ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス）の略であり、コンピューター、シンセサイザー、シーケンサーの間で演奏情報を相互伝達させるためのプロトコル（世界共通言語）です。MIDIファイルには楽譜上の音符、リズム、楽器などの演奏情報が含まれます。

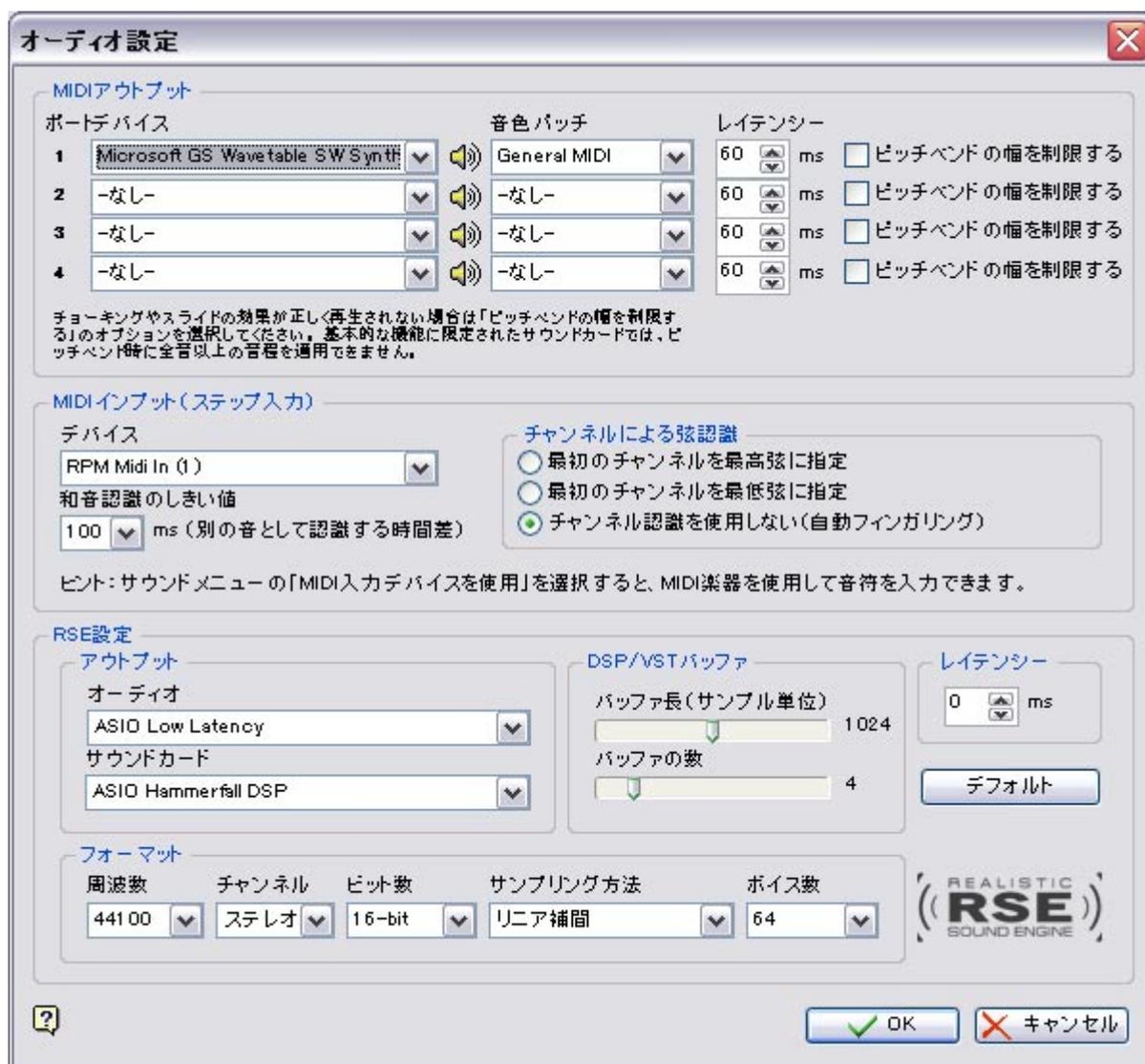
音質はお使いのハードウェア（サウンドカード、ハードウェアシンセサイザー等）によって異なります。

同様にGuitar Proで演奏できる楽器はGeneral MIDIの仕様ですので、特定のハードウェアを使用しない場合拡張性はありません。

 **サウンドの問題**：ご使用のサウンドカードにより、再生中にクラック音が聞こえる場合、画面のプロパティを開き（Windowsのデスクトップ上で右クリックしてプロパティを選択）設定タブをクリックし、詳細設定をクリックします。トラブルシューティングタブをクリックしハードウェアアクセラレーターの項目を<なし>に設定します。

MIDIセットアップ

メニューの  **オプション** > **オーディオ設定 (Mac : サウンド > MIDIセットアップ)** を選択し、ご使用の環境によってMIDIアウトプットを設定します。



オーディオ設定

MIDIアウトプット

ポートデバイス	音色パッチ	レイテンシー
1 Microsoft GS Wavetable SW Synth	General MIDI	60 ms <input type="checkbox"/> ピッチベンドの幅を制限する
2 -なし-	-なし-	60 ms <input type="checkbox"/> ピッチベンドの幅を制限する
3 -なし-	-なし-	60 ms <input type="checkbox"/> ピッチベンドの幅を制限する
4 -なし-	-なし-	60 ms <input type="checkbox"/> ピッチベンドの幅を制限する

チョーキングやスライドの効果が正しく再生されない場合は「ピッチベンドの幅を制限する」のオプションを選択してください。基本的な機能に限定されたサウンドカードでは、ピッチベンド時に全音以上の音程を適用できません。

MIDIインプット (ステップ入力)

デバイス: RPM Midi In (1)

和音認識のしきい値: 100 ms (別の音として認識する時間差)

チャンネルによる弦認識

- 最初のチャンネルを最高弦に指定
- 最初のチャンネルを最低弦に指定
- チャンネル認識を使用しない(自動フィンガリング)

ヒント: サウンドメニューの「MIDI入力デバイスを使用」を選択すると、MIDI楽器を使用して音符を入力できます。

RSE設定

アウトプット

オーディオ: ASIO Low Latency

サウンドカード: ASIO Hammerfall DSP

DSP/VSTバッファ

バッファ長(サンプル単位): 1024

バッファの数: 4

レイテンシー: 0 ms

デフォルト

フォーマット

周波数: 44100 | チャンネル: ステレオ | ビット数: 16-bit | サンプリング方法: リニア補間 | ボイス数: 64

REALISTIC RSE SOUND ENGINE

OK キャンセル

MIDIアウトプット:

Guitar Proは一度に4つのMIDIポートに演奏情報を送信できます。そのため異なるMIDI機器に演奏情報を送信することが可能です。

最初のMIDIポートにメインとして使用したいMIDI機器を選びます。Guitar Proでトラックを作成したときにこのポートがデフォルトで使用されます。

(Windows版のみ) スピーカー  ボタンで選択されたMIDI機器のサウンドサンプル音をモニターすることができます。もし何の音も聞こえない場合、そのデバイスは使用できないかミュート（消音）されています。ミュートされている場合、メニューの  **オプション > Windowsボリュームコントロール** メニューでそのデバイスの音をミュートを解除するか他のポートを使用してください。

選択されたMIDI機器によって異なる楽器パッチが選択されるかもしれません。楽器パッチは楽器のリストを含んだファイルとして保存されています。**General MIDI.gpp**というファイルがGuitar Proに付属されています。ユーザー自身が使用しているシンセサイザーや外部音源のようなMIDI機器の楽器パッチリストを作成することも可能です。これらのリストは音を発音させるものではなく、画面上に表示するためのものです。

ピッチベンドの幅を制限する チェックボックスは全音以上の音程変化を禁じます。クオリティーの低いサウンドカードはしばしば音程変化に制限があります。もしベンドやスライドの再生効果音がおかしい場合はこのオプションにチェックを入れます。全音以上の音程変化は演奏されません。

MIDIインプット:

MIDIインプットはMIDI楽器で演奏された音符を認識します。MIDI楽器（またはMIDIインターフェース）のMIDIドライバーがコンピューターにインストールされMIDIインプットの**デバイス**選択の項目でそのMIDI機器が選択されている必要があります。

和音認識のしきい値は和音中の2つの音符間の最大のずれ幅を1/10秒単位で変更できます。演奏された2つの音符間の音価が和音認識のしきい値よりも大きい場合、二つ目の音は和音としてではなく次の拍に入力されます。

チャンネルによる弦認識の項目はどのように音を認識するかを設定します。もしMIDIギター（ギターシンセサイザー）を使用している場合、各弦に異なるMIDIチャンネルを送ることができます。**最初のチャンネルを最高弦に指定**、または**最初のチャンネルを最低弦に指定**を選択します。もしMIDIギターを使用しない場合または弦へチャンネルを割り当てることのできないデバイスを使用している場合は一番下の**チャンネル認識を使用しない**（自働フィンガリング）の項目を選択します。この場合Guitar Proは自動的に音符をフレットボードにMIDIインポートのように配置します。

メニューの  **サウンド > MIDI入力デバイスを使用**を選択することで音符の認識の開始/停止ができます。

詳しい情報は [音符の入力](#) をご参照ください。

ポートとチャンネル

名称	S	M	Port	Ch	Ch2
ドラム	S	M	1	1	1
ギター	S	M	1	2	2
キーボード	S	M	1	3	3
パーカッション	S	M	1	10	10

ミックステーブルで各トラックのMIDIポートとチャンネルを選択できます。

デフォルト設定ではGuitar Proは1つのトラックに2チャンネルを使用します。1つのチャンネルはエフェクトを反映されるため使用されます。(エフェクトがかかっていない音符にエフェクトがかからないように別のチャンネルがエフェクト用に使用されます)。もし同じMIDIポートの同じチャンネルを使用した場合、オーディオ設

定(楽器、音量、パンなど)はリンクされます。もし楽譜がたくさんトラックを含むときは各トラックに対して1チャンネルずつしか割り当てられない場合もあります。パーカッションはGeneral Midiの仕様によりMIDIチャンネルの10チャンネルが使用されます。

楽譜を再生する

Guitar Proは楽譜上で簡単に作業できるようにデザインされています。楽譜を再生するために多くのオプション機能が搭載されています。

楽譜を再生する:

楽譜を再生するにはサウンドメニュー、キーボードのスペースキー [SPACE] またはサウンドツールバーを使用します。



再生開始位置は好きなところを選べます:

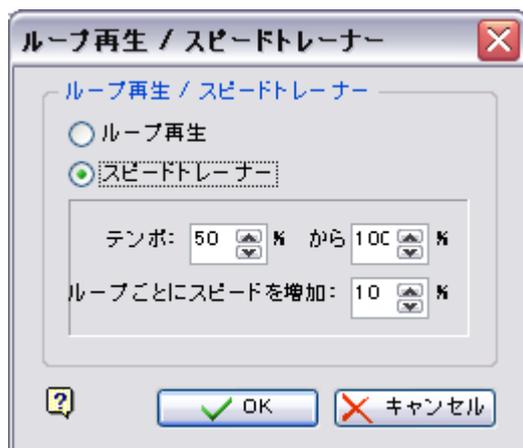
- ▶ 現在位置から再生する
- ▶ 楽譜の最初から再生する

楽譜の特定の場所から再生するにはまずマウスを使用してその位置を選択する必要があります。

参考: Windows版では、キーボードショートカットの [Ctrl+Tab] と [Shift+Tab] を使用して再生中にマーカー間を移動できます。

ループ再生 / スピードトレーナー

メニューの  サウンド > ループ再生 / スピードトレーナー を選択し、1つのパートもしくはすべてのパートをループ再生できます。



楽譜の特定の場所をループ（繰り返し）再生したい場合、まずマウスを使用してループ再生したい範囲を選択する必要があります。

ループ再生オプションは楽譜のテンポを変化させずに同じテンポでループ再生し続けます。**スピードトレーナー**はループ再生の再生開始地点に戻る度に設定した初期テンポと最終テンポとテンポアップ値にしたがって再生速度が上がります。

テンポ

メニューの  サウンド > テンポ を選択し楽譜再生の初期テンポを設定します。曲の途中でテンポチェンジさせたい場合は **パラメーターチェンジ**機能を使用してください。

相対的テンポボタン <X0.50> はファイル自体のテンポ設定を変更することなくいつでもテンポを係数によって速くしたり遅くしたりできます。係数は x0.25（4分の1にテンポを遅く）から x2（2倍のテンポに速く）の範囲で設定できます。

メトロノームとカウントダウン

メニューの  サウンド > **メトロノーム** を選択し楽譜再生中のメトロノーム機能を有効にします。メニューの  オプション > **環境設定 (Mac : Guitar Pro > 初期設定)** を選択し一般タブ内のメトロノームの項目でメトロノームの設定をすることができます。メトロノームは単体で使用することができます。

メニューの  サウンド > **カウントダウン** を選択し Guitar Pro に楽譜を再生させる前に空の小節を再生させることができます。その際に聞こえるカウントダウンのクリックでテンポを確認することができます。

ミックステーブル

< >	名称	S	M	Port	Ch	Ch2	楽器	ボリューム	Pan	Cho	Rev	Pha	Tre
1	ドラム	S	M	1	1	1	25			0	0	0	0
2	ギター	S	M	1	2	2	24			0	5	0	0
3	キーボード	S	M	1	3	3	24			0	5	0	0
4	パーカッション	S	M	1	10	10	0			0	0	0	0

ミックステーブルは楽器、音量、定位などパートの音に関する設定をする項目です。これらの設定項目は楽譜の初期設定として機能します。その他 [パラメーターチェンジ](#) を使って楽譜の途中で設定を変更することも可能です。ミックステーブルはまた楽譜再生中に設定変更することも可能です。そのため楽譜を再生してからパートに設定されている楽器をクリックし別の楽器に変更することができます。

ミックステーブルは **Solo** (ソロ) ボタン (S) と **Mute** (ミュート) ボタン (M) があり、他のパートを演奏せずに1つのパートのみ、または複数のパートのみ演奏させたり、1つまたはいくつかのパートをミュート (消音) することができます。もし1つまたは2つのパートを聞きたい場合はSolo (ソロ) ボタン (S) を使用したほうが作業が早いでしょう。しかしもし1つまたは2つのパートを (自分で演奏するため) ミュート (消音) したい場合、Mute (ミュート) ボタン (M) を使用したほうが作業が早いでしょう。

ボリューム、Pan (定位)、chorus (コーラス)、reverb (リバーブ)、phaser (フェイザー)、tremolo (トレモロ) の設定項目は スライダーまたは 数値で調整することができます。数値での変更の場合、数値の部分をクリックし上方向にドラッグすると数字が増加し、下方向へドラッグすると減少します。楽器も変更することができます。

スライダーと数値の切り替えは各項目の名称の文字 (例: chorusまたはchoと書かれた文字の部分) をクリックすることで切り替わります。

パート番号の上に表示されている のボタンはすべてのパラメーター表示の最小化/最大化の切り替えができます。

参考:いくつかのサウンドカードはchorus, reverb, phaser, tremoloなどの効果を認識しません。この場合、これらのエフェクトは楽譜再生時に反映されません。

ステップバイステップモード (Windows版のみ)

Guitar Proのタイトルバーに表示されている青い手の絵のボタン は楽譜の音を一音ずつ再生することができます。

再生中、 または ボタンを押すと楽譜再生を止めずに前の小節または次の小節に再生小節を移動させることができます。

楽譜を印刷する

ページ設定

メニューの  **ファイル** > **ページ設定** を選択するとページ設定の値を調整することができます。



ページフォーマット、用紙の方向、マージン

ページフォーマット、用紙の方向、マージンは楽譜のページの大きさと紙の向きとマージンを設定することができます。このページフォーマットはファイルに保存され、プリンターの設定とは別に維持されます。

スコアのサイズ

パーセントによって設定する項目です。このオプションはペーパーサイズを変更せずにスコア全体のサイズを変更することができます。

もし改行を加えている場合はその状態が維持されるので小節の配置が思うようにならない場合は、**小節** > **段の改行** > **小節の配置をリセット** を選択し Guitar Pro にスコアの小節の配置設定をリセットさせてください。

ヘッダとフッタ

これらのチェックボックスは楽譜上で表示させたい要素を選択することができます。文字入力欄では表示させたいテキストをユーザーが入力することができます。[%] のシンボルの間の文字はメニューの **ファイル > スコア情報** で設定したテキストに自動的に入れ替わります。文字の位置とフォント変更は現在の Guitar Pro のバージョンでは残念ながらできませんが今後のアップデートでこの機能が付く予定です。

スコアに適用 ボタンを押すことで変更の確認をすることなしにページセットアップの変更を確定できます。

デフォルト設定として保存 ボタンは現在のページセットアップ設定を新しい楽譜を新規作成する際の初期設定として保存することができます。

デフォルト設定を適用 は現在開いている楽譜を初期設定に設定し直します。この機能は他のユーザーが作成したファイルを開いた際にページセットアップが正しくない場合に便利です (外国で使用されているペーパーサイズが設定されている場合など)。

印刷する

メニューの **ファイル > 印刷** を選択することで楽譜を印刷できます。



印刷 の項目ではプリントするページを設定します。楽譜全体もしくは設定したページの範囲で印刷できます。

配置 の項目は楽譜サイズをペーパーサイズに合わせることができます。楽譜サイズはメニューの **ファイル > ページ設定** を選択し設定することができますが、ペーパーサイズと必ずしも一致しているわけではありません。そのため **設定** ボタンを押してプリンタ設定でペーパーサイズを変更するか、または **拡大縮小** の項目で楽譜のサイズを変更してください。**ページサイズに合わせる** の項目にチェックを入れると自動的にペーパーサイズに楽譜サイズが合うように計算されサイズが設定されます。

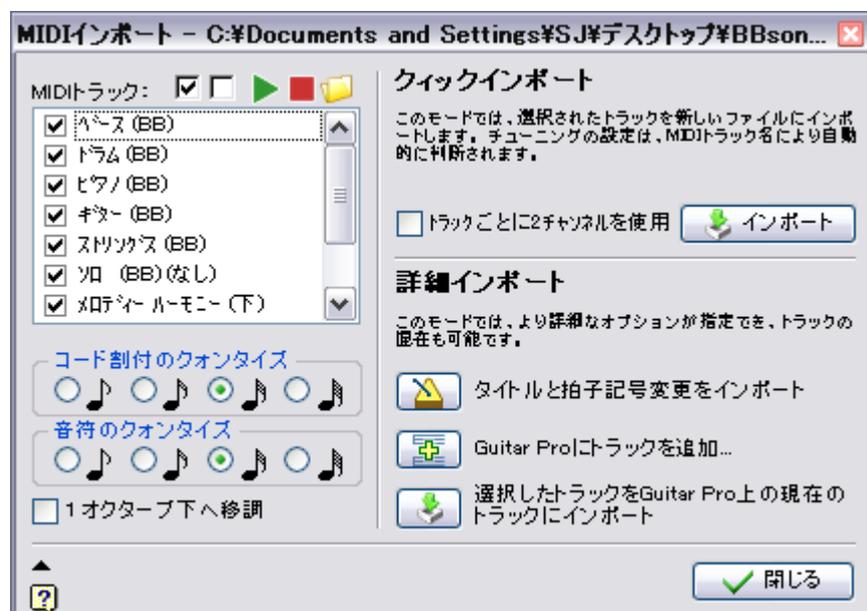
楽譜をインポートする

スタンダードMIDIファイルのインポート

 MIDIとはMusical Instrument Digital Interface（ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス）の略であり、コンピューター、シンセサイザー、シーケンサーの間で演奏情報を相互伝達させるためのプロトコル（世界共通言語）です。MIDIファイルには楽譜上の音符、リズム、楽器などの演奏情報が含まれます。実際に発音される音質はお使いのサウンドカードによって異なります。

メニューの  **ファイル** > **インポート** > **MIDIインポート** を選択しMIDIファイルをGuitar Proにインポートする（取り込む）ことができます。Guitar Proはフォーマット0とフォーマット1のスタンダードMIDIファイルをインポートすることができます。

MIDIファイル(.mid)を取り込んだ後、Guitar ProはMIDIインポートウィンドウを開きます。取り込んだMIDIファイルの異なったMIDIパートが左側に表示されます。それらを聞くことや、他のファイルを開くことが可能です。



 **参考**：左下の上向きの黒い三角形のボタンを押すとウィンドウを最小化できます。

• クイック・インポート（Windows版のみ）

クイック・インポートはファイルの生成はとても早いですが、インポート時の細かい設定する項目は少ない自動取り込み機能です。

MIDIトラックリストで選択されている各パートを元にGuitar Proにパートが生成されます。パートのチューニングはMIDIトラックの名前にしたがって選択されます。タイトルと拍子記号の変更位置は自動的に取り込まれます。

トラックごとに2チャンネルを使用のチェックボックスは各パートごとに2つのMIDIチャンネルを使用する設定項目です。このオプションはタブ譜にbend（ベンド）やslide（スライド）の効果を加えたい時に便利です。詳しくは[サウンドの設定](#)の項目をご参照ください。

• 詳細インポート（Windows版のみ）

詳細インポートはインポート時にオプションが選択できます。クイックインポートで望ましい結果にならない場合（例えばパートのチューニングが特別な場合、パーカッションパートのMIDIチャンネルがチャンネル10に設定されていない時など）またはいくつかのMIDIトラックをGuitar Proで1つのパートにまとめたい時などにこの方法をお試しください。

詳細インポートの場合は既存のトラックは削除されないの、既存のトラックにドラム/パーカッショントラックを追加したい場合などに大変便利です。

インポートの手順は以下の通りです。

- 1 新規ファイルを作成するためにメニューの  **ファイル** > **新規** を選択します。（既存の楽譜に新たにトラックを追加したい場合を除く）
- 2  **タイトルと拍子記号の変更をインポート** ボタンをクリックします。（タイトルと拍子記号の設定の情報を取り込みたい場合）
- 3  **Guitar Pro にトラックを追加** ボタンをクリックします。追加したいトラック（パート）の種類を選択します。それからそのパートのチューニングを設定します。
メニューの  **トラック** > **プロパティ** を選択することにより、すでに楽譜上に存在するパートのチューニングを後からでも設定できます。
- 4 取り込みたいMIDIトラックをリストから選択します。もし複数選択した場合はそれらのトラックが1つのパートにまとめられます。  **選択したトラックを Guitar Pro 上の現在のトラックにインポート** ボタンをクリックします。
- 5 取り込みたいトラックがすべてインポートできるまで3番の手順からの作業を行います。

インポートモードではいつでも **位置や音符の長さを正確な設定** することができます。また **インポートした音符を1オクターブ下げる** こともできます。

MIDIインポートをする際のいくつかの注意点

- Guitar Proはテンポチェンジ、ボリューム（音量）、楽器のパッチチェンジ情報などのMIDIトラックパラメーターをインポートします。
- MIDIファイルはギターに必要なフィンガリング（運指）の情報を含んでいないため、Guitar Proでは **自動運指ポジション指定** ツールをツールメニューから選択し一番弾きやすい運指を表示させることができます。
- MIDIファイルをインポートした後で、Guitar Proの音を取り込み元のオリジナルファイルと異なる場合があります。その理由はいくつか考えられます：
 - いくつかの音はそのパートで選択されているチューニングの範囲外なため（設定されたチューニングのギターで鳴らせる音よりも低いまたは高いため）
 - いくつかの音符が短すぎてインポートされていない。
 - MIDIファイルがピッチチェンジのMIDI情報を含んでいる（Guitar Proではサポートされていません）。

ASCIIフォーマットファイルのインポート

 **定義**：ASCIIフォーマットはタブ譜をテキストで表し、タブ譜の弦の線はハイフンで描かれます。このフォーマットは読みづらいのですが、特別なソフトウェアを使わずに表記できるため、現在インターネットで公開する際に広く使われています。一般的にファイル拡張子は .txt または .tab です。

Guitar ProはASCIIテキストを解析して音楽的データを抽出し、Guitar Proで演奏したり編集したり印刷する楽譜に変換することができます。

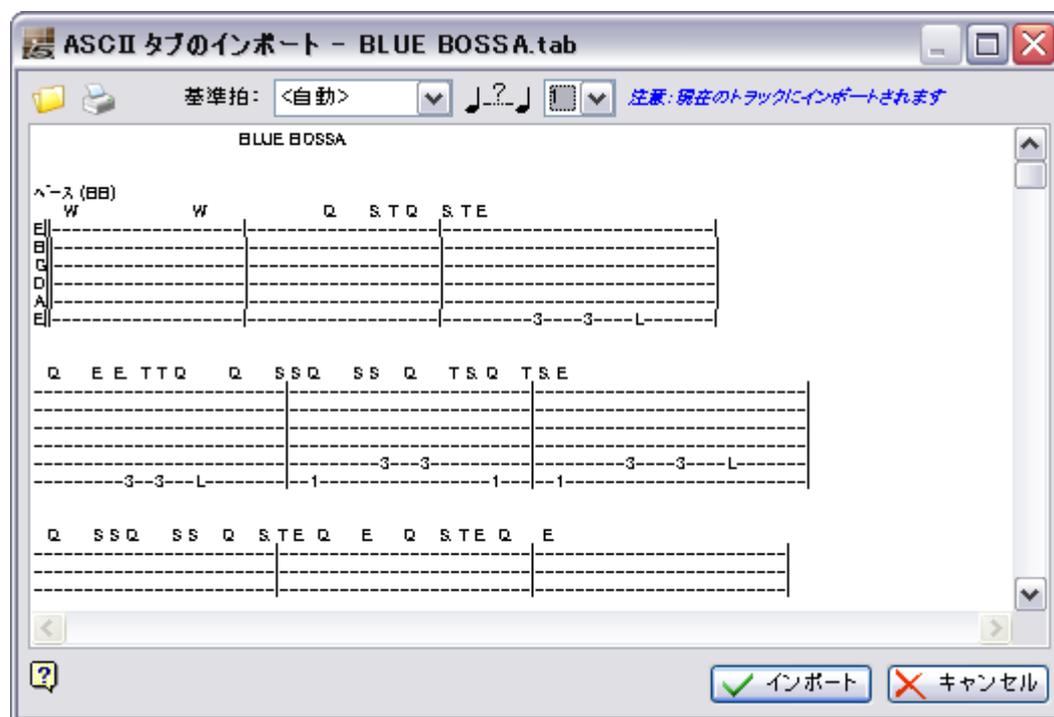
Guitar Proは音符、リズム、エフェクト、小節線をインポートできます。記譜内容は選択されているパートにインポートされます。そのためいくつかのASCIIテキストファイルを異なる楽器としてインポートすることが可能です。

インポートするファイルにはコメントや様々なテキストが含まれていても構いません。Guitar Proはそのファイルの内容がどのようなものであれ、タブ譜情報のみを読み取ります。

インポートされるために守られるべき決まりは以下の通りです。

- 弦の線はハイフン<->で描かれていること。
- 小節線の区切りは各弦ごとに垂直の縦線で<|>で描かれていること。
- タブ譜の弦の間に空白の行を入れないこと。
- タブ譜の線内にコメントなどをテキストで入力しないこと。

メニューの  **ファイル > インポート > ASCII** を選択しASCIIインポートウィンドウを開きます。そのウィンドウ内のテキストゾーンにインポートしたテキストを貼り付けます。またASCIIテキストファイルを開いたり  左上の印刷ボタン  を押すと印刷することができます。



インポートに不都合な記載を修正するためにこのウィンドウでタブ譜を修正/編集することもできます。

基準拍と書いてあるドロップダウンメニューからデフォルトのリズムを選択できます。もし <自動> が値として選択されている場合Guitar Proはできるかぎり最適のリズムでインポートを試みます。その右隣の設定項目の数字の間隔によって2つの4分音符の間隔が計算されます。

ASCIIインポートの後、各小節が完全小節になっているか、楽譜全体のリズムを確認する必要があります。この場合、メニューから **ツール > 小節の拍数をチェック** を選択すると便利です。もし小節内の拍数が間違っている状態で楽譜を再生するとリズムは正しく再生されず、小節の長さを越えて入力されてしまっている音符は再生されません。

MusicXML ファイルフォーマットのインポート

メニューから  **ファイル > インポート > MusicXML** を選択し楽譜を MusicXML フォーマットのファイルを読み込むことができます。

MusicXMLは、Recordare[®]社のファイルフォーマットで楽譜でのXMLファイルフォーマットです。

楽譜作成ソフトウェア間で相互ファイル共有できるこのフォーマットは多くの音楽ソフトでサポートされています。

PowerTab フォーマットファイルのインポート (Windows版のみ)

メニューの  **ファイル > インポート > PowerTab** を選択するとPowerTabフォーマットのファイルのインポートができます。

PowerTab[®]は優れたタブ譜編集ソフトですがGuitar Proとは違ったアプローチのソフトウェアです。このソフトは <http://powertab.net> でお求めになれます。

TablEdit フォーマットファイルのインポート (Windows版のみ)

メニューの  **ファイル > インポート > TablEdit** を選択すると TablEdit フォーマットのファイルのインポートができます。

TablEdit[®]は優れたタブ譜編集ソフトですがGuitar Proとは違ったアプローチのソフトウェアです。このソフトは <http://www.tabledit.com> でお求めになれます。

楽譜のエクスポート

スタンダードMIDIファイルのエクスポート

 **定義:** MIDIとはMusical Instrument Digital Interface（ミュージカル・インストゥルメント・デジタル・インターフェイス）の略であり、コンピューター、シンセサイザー、シーケンサーの間で演奏情報を相互伝達させるためのプロトコル（世界共通言語）です。MIDIファイルには楽譜上の音符、リズム、楽器などの演奏情報が含まれます。実際に発音される音質はお使いのサウンドカードによって異なります。

メニューの  **ファイル** > **エクスポート** > **MIDI** を選択するとMIDIファイル（MIDIフォーマット1固定）を書き出すことができます。

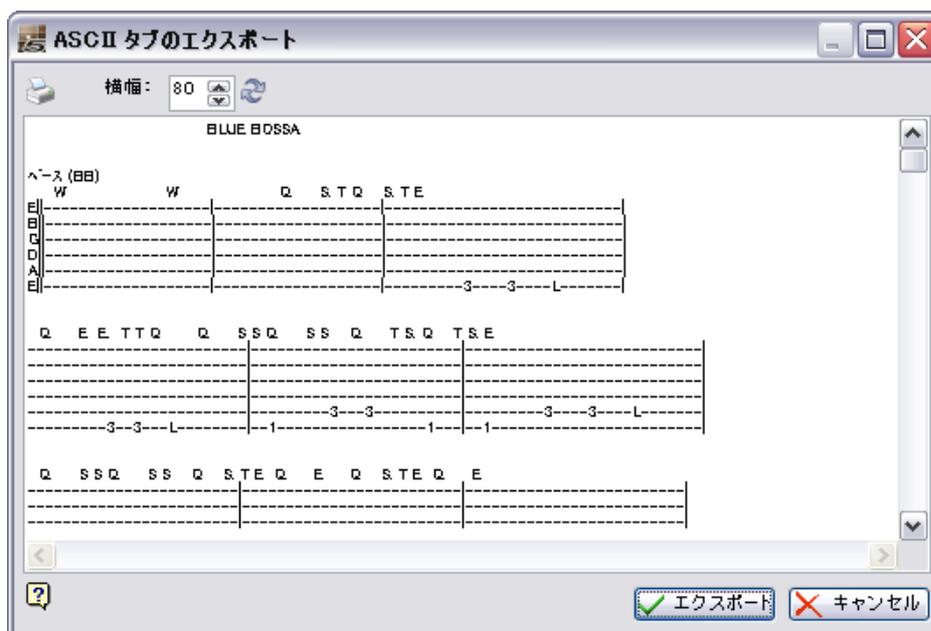
特定のパートを書き出したいくない場合はミックステープルでそのパートを**ミュート**してください。

 **参考:** Guitar Proでは1つのパートに対して2つのMIDIチャンネルを割り当てることができます。他のソフトウェアではこの機能をサポートしていないものもあるので、もしGuitar Proで書き出したMIDIファイルがそれらのファイルで読み込めない場合は1つのパートにつき1つのMIDIチャンネルを割り当ててください。

ASCIIフォーマットファイルのエクスポート

 **定義:** ASCIIフォーマットはタブ譜をテキストで表し、タブ譜の弦の線はハイフンで描かれます。このフォーマットは読みづらいのですが、特別なソフトウェアを使わずに表記できるため、現在インターネットで公開する際に広く使われています。一般的にファイル拡張子は .txt または .tab です。

メニューの  **ファイル** > **エクスポート** > **ASCII** を選択し、現在選択されているパートをASCIIファイルとして書き出すことができます。ウィンドウが現れエクスポートされた結果がプレビューでき、横幅：（一行あたりの文字数）の数を設定することができます。



 **印刷** ボタンを押すと表示されたASCIIフォーマットのタブ譜をプリントアウトすることができます。

エクスポート ボタンを押すとASCIIフォーマットのタブ譜ファイルとして好きな名前を付け保存することができます（ファイル名の最後に .tab の拡張子が付きます）。

MusicXML ファイルフォーマットのエクスポート

メニューから **ファイル > エクスポート > MusicXML** を選択し楽譜を MusicXMLフォーマットのファイルとして書き出すことができます。

MusicXMLはRecordare[®]社によるファイルフォーマットで楽譜でのXMLファイルフォーマットです。

楽譜作成ソフトウェア間で相互ファイル共有できるこのフォーマットは多くの音楽ソフトでサポートされています。

WAVE フォーマットファイルのエクスポート

メニューの **ファイル > エクスポート > Wave** を選択すると楽譜をプレイバックしている間に聞こえる音をWAVE（オーディオ）ファイルに書き出すことができます。

WAVE ファイルへのエクスポートによってGuitar Proを使用せずに楽譜のプレイバック音を楽しむことができます。このファイルをNero[®] や EasyCD Creator[®]などのソフトウェアでCD-Rに焼くことで、Guitar Proで作成した曲をCD Playerで聴くこともできます。

WAVEエクスポートをメニューから選択するとGuitar Proは録音デバイスと作成されるWAVEファイルの音質を選択するウィンドウが現れます。



次のウィンドウではファイルの保存先を設定します。

それから▶再生ボタンをクリックすると録音が始まります。■停止ボタンをクリックすると録音を終了します。また楽譜の最後までプレイバックすると自動的にプレイバックが停止し録音を終了します。

録音は1回のみとなるので再録音をしたい場合は再度メニューの**ファイル > エクスポート > Wave**を選択してWAVEエクスポートを行ってください。

BMPフォーマットのエクスポート（Windows版のみ）

メニューの  **ファイル > エクスポート > BMP** を選択し楽譜を画像ファイルに保存することができます。この機能はホームページなどであなたの作成した楽譜を公開したい場合などに便利です。

楽譜が画像に書き出された状態はGuitar Proの編集画面で見ている状態と同じになります。

保存ボタンを押すと画像が保存されます。

 **参考：**画面表示の拡大縮小率は書き出される画像に反映されます。そのため使用用途によって画像の大きさを変えて保存することができます。

 **注意：**BMPエクスポート機能はページモード（メニューの  **表示 > ページモード** を選択）で表示している場合のみご使用いただけます。

PDFフォーマットファイルのエクスポート（Windows版のみ）

メニューから  **ファイル > エクスポート > PDF** を選択すると楽譜全体をAdobe® PDFフォーマットで書き出すことができます。PDFファイルはAdobe® のサイトで無償配布されているAdobe® Readerソフトウェアを使用し誰でも楽譜を読んだり印刷できるフォーマットです。

Guitar Pro 4フォーマットファイルのエクスポート（Windows版のみ）

メニューから  **ファイル > エクスポート > Guitar Pro 4 フォーマット** を選択し楽譜をGuitar Pro 4フォーマットファイルで書き出すことができます。ウィンドウが現れるので保存するファイルのファイル名と保存先を設定し保存します。

 **参考：**バージョン5では新たに追加された機能がたくさんあるので、Guitar Pro 4フォーマットで書き出した場合、いくつかの音楽的要素は含まれないことがあります。[バージョンアップした内容と新機能についての項目](#)をご覧ください。

6 ギタリストのためのツール

コードダイアグラムツール

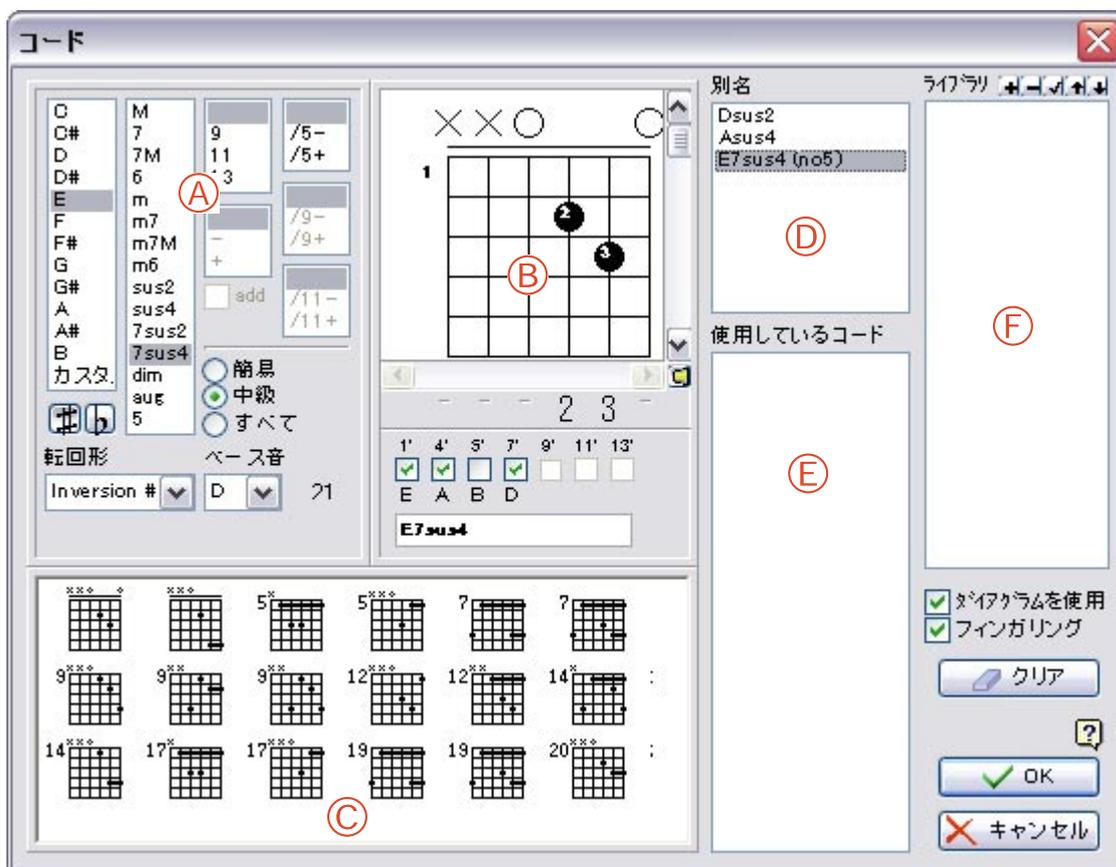
コードダイアグラムツールはGuitar Proの優れた機能です。ギタリストにとってはそれ単体でも便利にお使いいただけます。

コードダイアグラムツールを開くには、メニューの **音符 > コード** を選択します。

Guitar Proの他のツールと同様コードダイアグラムツールは自動的に選択されているパートのチューニング設定が適用されます。民族音楽などの特殊なチューニング楽器用のコードダイアグラムを生成することもできます。

コードブックには載っていないコードも作成可能です。

コードダイアグラムツールはいくつかのゾーンで構成されています。



各ツールのゾーンは密接に他のゾーンと関わりあっています。このツールを使いこなすにはどのようにこのツールが機能するのかを理解することが重要です。

ゾーンA - コード構成

図の(A) ゾーンはコードの名前によってコード構成を決める項目です。何千ものコード構成の組み合わせが設定できます。

(A)ゾーンのリストの1つをクリックしたとき、Guitar Pro は (B)ゾーンにそのコードネームを表示します。そして (C)ゾーンに該当するダイアグラムのリストが表示されます。リストの最初のダイアグラムは (B)ゾーンでデフォルトで選択されているダイアグラムです。

転回形（コード構成音のルート以外の音がベース音となるコード）を定義することも可能です。または分数コードのように弦の一番低いベース音を表示することもできます。

メニューの  **オプション** > **環境設定** を選択し **一般** の <コードの認識> 欄の <最低音がルートと異なる場合はコードネームに常に表示> のチェックボックスにチェックを入れるとルートと異なるベース音の場合はコードネームにつねにベース音が表示されます。

ゾーンB - メイン・ダイアグラム

図の (B)ゾーンはメイン・ダイアグラムを表示します。このメイン・ダイアグラムは楽譜に入力されるコード・ダイアグラム（フィンガリング/コード構成/コードネームを含む）です。フィンガリングは黒い丸で表され（1は人差し指、2は中指、3は薬指、4は小指を表します。）ダイアグラムの下にもフィンガリングの数字が表示されていて、その番号をクリックすると指番号を変更することができます。

ダイアグラムを直接クリックすることでダイアグラムの構成を編集できます。

- 弦上をクリックすることでコード構成音を追加/削除することができます。
- スクロールバーを使用してベース・フレットを変更することができます。
- ダイアグラム右横のチェックボックスのチェックをクリックすることでそのフレットをセーハをする/しないの選択ができます。セーハは自動的にGuitar Proが表示させるのでセーハしないコードの押さえ方の場合はチェックボックスのチェックをはずします。
- ダイアグラム下のフィンガリングの番号をクリックするとコードを押さえる指番号を設定することができます。フィンガリングは自動的に表示されます。もし変更をした場合、Guitar Proはそれを記憶したようなコードが出てきた場合にはそのフィンガリングを使用します。
- 1、3、5と書かれたチェックボックスのチェックをはずすとコードのいくつかの音を省略（Omit）することができます。
- Guitar Proがリストにあげたコードネームリストから表示させたいコードネームを選択します。そのコードネームがタブ譜パートに表示されます。

重要事項：メイン・ダイアグラムをクリックした時、(A)ゾーンはカスタムモードに切り替わり、コードの名前が消えるのでコードネームを新たに入力することができます。それから別名リストからコードネームを選択してください。Guitar Proは自動的にコードに名前を付け (A)ゾーンの設定をそのコード構成にセットします。また (C)ゾーンではそのコードの様々なコードフォームのバリエーションを見ることができます。

ダイアグラムの上の○印は開放弦（その弦をどの指も押さえていない状態）を意味し×印はその弦を演奏しないことを意味します。

ゾーンC - ダイアグラム・リスト

(C)ゾーンは (A)ゾーンで設定されたコードの考えられる様々なコードフォームを表示します。

(A)ゾーンの**簡易中級/すべて**モードでどれだけ複雑なコードフォームのダイアグラムを表示させるかをフィルターをかけて選択することができます。

それらのダイアグラムの1つをクリックすると (B)ゾーンのメインダイアグラムに表示されます。メインダイアグラム下のスクロールバーを水平に動かすことによって (C)ゾーンで選択しているダイアグラムの切り替えができます。

選択したダイアグラムの音を聞くにはメインダイアグラムの右下のスピーカーの絵のボタンを使用します。

リストD - 別名

(D)リストにはメインダイアグラムのコードフォームに付けられる考えられる**様々なコードネーム**が表示されます。このリストのコードネームをクリックすると (A)ゾーンの設定がそのコードネームに設定され、(C)ゾーンの下のコードネームが表示されている入力欄にそのコードネームが表示されます。

リストE - 使用しているコード: (選択されているパートで既に使用されているコードリスト)

(E)リストの**使用しているコード**項目では選択されているパートで使用されているコードダイアグラムを自動的に表示します。

マウスのカーソルをこのリストに表示されているコードネームに合わせるとヒント・ウィンドウが現れ、そのコードのダイアグラムがその中に表示されます。

リストF - ライブラリ

(F)リストの**ライブラリ**は開いているファイルとは独立したあなた自身のコードライブラリを作成することができます。

追加 (+)、削除 (-)、更新 (チェックマーク)、表示順 (↑↓) の5個のボタンでリストを編集できます。

マウスのカーソルをこのリストに表示されているコードネームに合わせるとヒント・ウィンドウが現れ、そのコードのダイアグラムがその中に表示されます。

その他の要素

ダイアグラムを使用のチェックボックスはダイアグラムをタブ譜に表示させるか選択します。もしチェックが入っていない場合はタブ譜にコードネームのみ表示されます。

フィンガリングチェックボックスはフィンガリングをダイアグラムの下に表示させるか選択できます。

クリアボタンをクリックすると選択されている拍のコードを削除できます。

 **参考:** コードダイアグラムツールを開いたとき、選択されている拍にダイアグラムが設定されていない場合、その拍の音は自動的にメインダイアグラムに配置されます。

 **参考:** コードダイアグラムツールの OK ボタンを押した時、選択されている拍に何の音符も入力されていない場合、メインダイアグラムの音符が自動的にタブ譜に表示されます。

 **参考:** トラックのプロパティウィンドウ (メニューの **トラック > プロパティ** を選択) で楽譜上 (五線譜の上または下) と楽譜の上部にダイアグラムを表示するかを選択できます。

これらのことからコードダイアグラムは以下の様々な用途に利用できます。

- ダイアグラムをタブ譜に入力する。
- 与えられたコードをフレットボードで押さえるため様々なコードフォームを調べる。
- あなたの楽器で発見したコードネームを調べ、そのコードのほかのコードフォームやフィンガリングを学ぶ。
- 変則チューニング使用の際、スタンダードなコードが変則チューニングではどのような押え方になるかを調べる。

スケールツール

スケールツールはどのキーのスケール（音階）でも表示して音を聞くことができます。楽譜に使われているスケールも認識できます。

スケールツールを使うにはメニューから**ツール > スケール**を選択します。フレットボード/ キーボードの右上のスケールと書いてあるボタンを押すことでもスケールツールを開くことができます。

スケールツールを開くとキーボードが同時に開かれます。フレットボード上のスケールを確認したい場合はスケールツールを開く前にメニューから **表示 > フィレットボード** を選択しフレットボードを開いておきます。

キーボードやフレットボードの表示モードは、自動的に **表示 [拍] + [スケール]** の表示に設定されます。スケールの各音、音名、音程、度数を確認するためにフレットボード表示を編集することができます。



スケールを表示させるにはスケールツールの左上のキー（C, C#, ...）後スケールを選択します。Guitar Proはそのスケールの音を表示します。スケールを聞くにはスケールリストの下に表示されるスケールの音名をクリックします。Guitar Proはスケールの構造をインターバル（音程）と共に、各音の間隔が半音何個分かを表示します。

Guitar Pro のすべてのツールがそうであるように、フレットボードの音は選択されているパートのチューニングの設定にしたがって表示されます。

楽譜で使用されているスケールを解析させる

楽譜で使用されているスケールを認識させるにはスケールを検索ボタンをクリックし検索機能を有効にさせます。



スケールを認識させたい小節の範囲を選択し検索ボタンをクリックします。Guitar Proは可能性のあるキー（調性）とスケールのリストと括弧で囲まれた数字を表示します。（[0]）括弧の中の数字はスケール外の音がいくつつ入っているかを表します。リストはスケール外の音が少ない順番に表示されます。

 **参考：**もし楽譜の転調が入っていてスケール検索が間違っただけの結果を表示する場合は、スケールを解析させる小節の範囲を転調されていない場所に限定して行ってみるとよいでしょう。

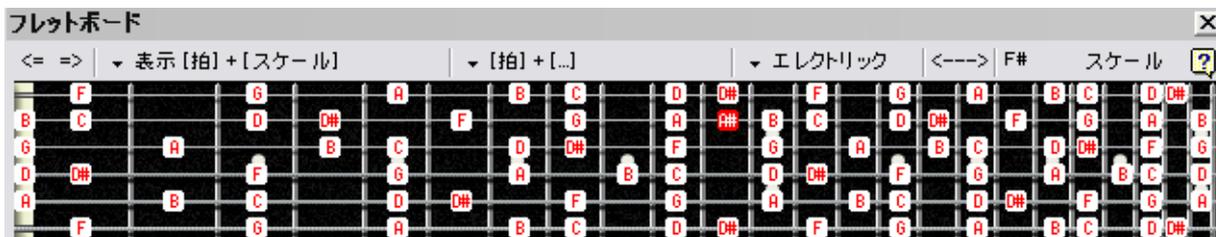
 **参考：**Guitar Proは直接スケールをタブ譜パートにスケールツールで表示させることはできませんがフレットボードにスケールを表示させることができます。フレットボードをクリックすることで簡単にタブ譜の音符を変更することができます。右クリックでフレットボードをクリックすると音符が入力され、カーソルが次の音符に移動するのですべての操作をとて早く行うことができます。

フレットボード

フレットボードは様々な機能を持ちます。楽譜上の音符をフレットボード上に表示したり、音符を入力したり、スケールを視覚化することができます。

メニューの  **表示** > **フレットボード** を選択することでフレットボードを表示できます。

フレットボードは選択されているパートのパート設定を元に表示されます。弦の数とカポのポジションは **トラックのプロパティ** で設定できます。もし選択しているパートを変更するとフレットボードは新しく選択したパートのパート設定に更新されます。



楽譜に音符を入力するにはフレットボードをクリックし、削除したい場合もその音をクリックします。<=> ボタンは楽譜を移動するときに使用します。そのため楽譜全体をマウスだけで入力することが可能です。

 **参考** : 右クリックでフレットボードをクリックすると音符の入力ができ、カーソルが次の入力位置に移動するのでボタンを使用する必要がありません。

表示モード

 **表示** ボタンでフレットボードに表示されたい項目を設定できます。

- **表示 [拍]**
選択されている音符のみを表示します。
- **表示 [拍] + [小節]**
選択されている拍の音と選択されている小節の音を表示します。
- **表示 [拍] + [ダイアグラム]**
選択されている拍の音と最後に出てきたコードダイアグラムの音を表示します。
- **表示 [拍] + [次の拍]**
選択されている拍の音と次の拍の音を表示します。
- **表示 [拍] + [スケール]**
選択されている拍の音とスケールツールで選択されているスケールの音を表示します。スケールの表示については音名/音程/度数の3種類のいずれかで表示できます。

フレットボードの音の表示の種類の設定方法

▼ [拍] + [...] ボタンでフレットボードに表示させる音の表示のさせ方を選択できます。

- なし
名前は表示させません。
- [拍]
選択された拍の音のみ表示
- [拍] + [...]
すべての音を表示

フレットボードのタイプ

Guitar Proではフレットボードタイプは4種類あります。

- **エレКТリック** (エレクティックギターのフレットボードスタイル)
- **アコースティック** (アコースティックギターのフレットボードスタイル)
- **クラシック** (クラシックギターのフレットボードスタイル)
- **ベーシック** (線で描かれたフレットボード)

これらフレットボードタイプの種類はフレットボードを視覚的に再現するためのもので、機能上は変わりありません。

フレットボードを左利き/右利き用に切り替える

<---> ボタンはフレットボードを反対向きに表示させます。この機能は左利きのギタリストのために使用できます。

カーソルを合わせ音名を表示する

マウスでカーソルをフレットボードに合わせるだけで音名が表示されます。したがって音名を確認するためにフレットボードをクリックする必要はありません。

スケール (スケールツール)

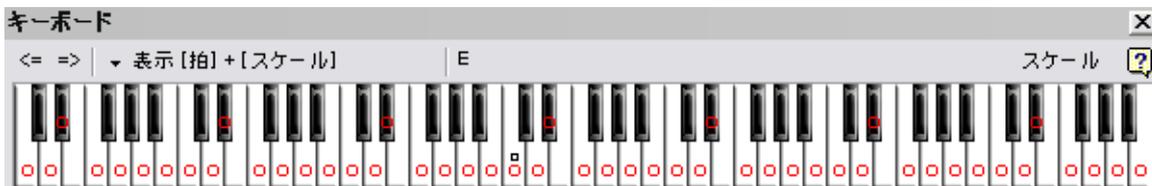
右上のスケールボタンをクリックすると**スケールツール**が開きます。フレットボードの表示はそれから自動的に**表示 [拍] + [スケール]**に設定され、スケールツールが閉じられてもこの設定は維持されます。楽譜を入力している間も選択したスケールを見ることができます。スケール表示を閉じるには別の表示オプションを選択してください。

 **参考** : フレットボードはツールバーなのでメインスクリーンの下か楽譜の上に配置することができます、またフレットボードをパレットの状態にすることによってスクリーンの好きな場所に移動することができます。

キーボード

フレットボードのようにキーボードに楽譜上の音を表示させ、音符を入力することができます。

またスケールを表示させることもできます。キーボードを表示させるにはメニューから **表示 > キーボード** を選択します。



楽譜に音符を入力するにはキーボードをクリックし、削除したい場合もその音をクリックします。ボタンは楽譜を移動するときに使用します。そのため楽譜全体をマウスだけで入力することが可能です。

 **参考** : 右クリックでキーボードをクリックすると音符の入力ができ、カーソルが次の入力位置に移動するのでボタンを使用する必要がありません。

表示モード

表示 ボタンでフレットボードに表示されたい項目を設定できます。

- **表示[拍]**
選択されている音符のみを表示します。
- **表示[拍]+ [小節]**
選択されている拍の音と選択されている小節の音を表示します。
- **表示[拍] + [次の拍]**
選択されている拍の音と次の拍の音を表示します。
- **表示[拍] + [スケール]**
選択されている拍の音とスケールツールで選択されているスケールの音を表示します。スケールの表示については音名/音程/度数の3種類のいずれかで表示できます。

カーソルを合わせ音名を表示する

マウスでカーソルをフレットボードに合わせるだけで音名が表示されます。したがって音名を確認するためにキーボードをクリックする必要はありません。

スケール (スケールツール)

右上の**スケール**ボタンをクリックすると**スケールツール**が開きます。キーボードの表示はそれから自動的に**表示 [拍] + [スケール]**に設定され、スケールツールが閉じられてもこの設定は維持されます。楽譜を入力している間も選択したスケールを見ることができます。スケール表示を閉じるには別の表示オプションを選択してください。

 **参考** : キーボードはツールバーなのでメインスクリーンの下か楽譜の上に配置することができ、またフレットボードをパレットの状態にすることによってスクリーンの好きな場所に移動することができます。

チューナー

Guitar Proでは楽器をチューニングためのいくつかの方法があります。

- 耳で音を聴いてチューニングする
- コンピューターにギターを接続してチューニングする
- マイクでギターの音を拾ってチューニングする

どのチューニングも選択されているパートのチューニングを元に行われます。

選択しているパートのチューニングを設定はメニューの  **トラック > プロパティ** で現われる画面でできます。

MIDIチューナー

MIDI チューナーでは楽器をチューニングするにはいくつかの方法があります。

- 耳で音を聴いてチューニングする
- 弦ごとにチューニングする

MIDIチューナーを使うにはメニューの  **トラック > プロパティ** を開きます。弦の数を選択し、右側のチューニングプリセットのリストから使いたいチューニングを選択します。各弦の設定を手動で編集することもできます。

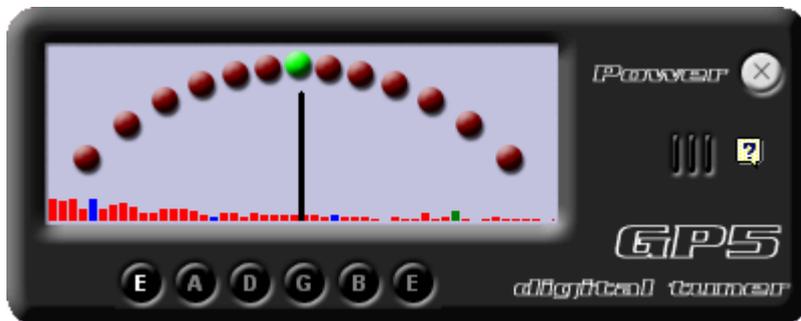


各弦の左側のスピーカーの絵のボタン  を押すと各弦のチューニング音を順番にループ再生させ音を確認することができます。音色は選択されているパートの **ミックステーブル** で設定されている楽器の音色で再生されます。

デジタル・ギター・チューナー

デジタルチューナーはあなたの楽器をサウンドカードのインプットに接続するかマイクロフォンを接続し音を拾ってチューニングすることができます。サウンドカードの入力ボリュームがミュート（消音）になっていないことを確認します。MIDIチューナーと異なりデジタルチューナーは音での確認ができません。

デジタルチューナーを使用するにはメニューから **ツール > デジタル・ギター・チューナー** を選択します。



チューニングしたい弦の音を選択し、その開放弦をギターで鳴らします。針が垂直に真ん中に合わさった時、緑色のランプが付きチューニングが合ったことを示します。もしギターの弦を鳴らしても針が反応しない場合はサウンドカードのセッティングをメニューの **オプション > Windowボリュームコントロール** を選択し、ギター信号の入力の設定が正しいか確認してください。

メトロノーム

メトロノームを使用するにはメニューの **サウンド > メトロノーム** を選択します。

メトロノームは楽譜再生時にテンポを鳴らします。しかしメトロノームのみを楽譜に関係なく鳴らすこともできます。

- 1 メニューの **ファイル > 新規** を選択し新規ファイルを作成します。
- 2 メニューの **サウンド > テンポ** でテンポを設定します。
- 3 メニューの **サウンド > ループ再生 / スピードトレーナー** を選択しループ再生を有効にします。
- 4 メニューの **サウンド > 曲頭から再生** を選択しプレイバックを開始します。

最初の空白の小節が繰り返し再生されメトロノームが鳴り続けます。

索引

A

ASCII タブ譜

インポート [48](#)

エクスポート [50](#)

Automatic Finger Positioning [32](#)

B

Bass [18](#)

BMPフォーマットのエクスポート [52](#)

C

CDに焼く [51](#)

G

Guitar Pro 4フォーマットファイルのエクスポート [52](#)

Guitar Proのアップデート [4](#)

Guitar Proのアンインストール [4](#)

Guitar Proの起動 [4](#)

L

Let Ring [21, 31](#)

M

MIDI [62](#)

MIDIアウトプット [40](#)

MIDIインプット [40](#)

MIDIインプットデバイス [17](#)

MIDIインポート [46](#)

MIDIエクスポート [50](#)

MIDIサウンド [39](#)

MIDIセットアップ [39](#)

MIDIチューナー [62](#)

MusicXML

インポート [49](#)

エクスポート [51](#)

P

PDFのエクスポート [52](#)

R

Rasgueado [20](#)

T

TablEditフォーマット・ファイルのインポート [49](#)

W

WAVEフォーマットファイルのエクスポート [51](#)

X

XML [49, 51](#)

あ

アクセントノート [21](#)

い

移調 [32](#)

印刷 [44, 45](#)

インターネット [35](#)

イントロダクション [7](#)

インポート [17, 46, 48](#)

う

ウィザード [31](#)

え

エクスポート [50](#)

お

オーディオ設定 [17](#)

音価 - 音の長さ [16](#)

音符の入力 [16](#)

か

カウントダウン [42](#)

楽譜内を移動 [36](#)

楽譜の印刷 [44](#)

楽譜の検索 [34](#)

楽譜を再生 [38](#)

楽譜を理解する [8](#)

歌詞 [26](#)

歌詞の追加 [26](#)

画像 [52](#)

楽器 [12](#)

カット [29](#)

カット/コピー /ペースト [29](#)

カポ [13](#)

き

キーボード [61](#)

機器 [17](#)

け

言語 [4](#)

検索する [34](#)

こ

ゴーストノート [21](#)

コード [24, 53](#)

コードダイアグラム [53](#)

ご使用にあたって [4](#)

コピー [29](#)

さ

再生 41
サウンドの設定 38
サウンドの問題 39

し

自働運指ポジション設定 32
シャープ 18
シャッフル・リズム 11
小節線 14
小節について 13
小節の拍数をチェック 32
小節配置 31
初期設定 11
小節内の拍数を休符で埋めて（または休符を削除して）完全小節にする 31
新規スコアの作成 11
シンボルを追加 19

す

スクリーン 37
スケールツール 57, 60
スコア情報 11
スタックカート 20
スタンダードMIDIファイル
 インポート 46
 エクスポート 50
ステップバイステップモード 43
ストローク 20
スピードトレーナー 42
スライド 23
スラッピング/チョッパー奏法 22

そ

装飾音符 20
相対的テンポ 42

た

タイ 17
ダイナミクス 31
ダウンロード 35
タッピング 22

ち

チャンネル 40, 46
チューナー 62
チューニング 13
調号 11

つ

強めのビブラート 24

て

ディスプレイ 37
ディスプレイ設定 37
テキスト 24
テクニカルサポート 6
テッドノート 21
テンポ 42

と

度数 59, 61
ドラムキット 32
トリル 24
トレモロバー /アーム 23
トレモロピッキング 24

な

ナチュラル 18

は

パーカッション 12, 32
バージョン 4, 34
バージョンアップした内容と新機能について 5
パートの設定 12
パームミュート 24
ハーモニクス 21
パラメーター・チェンジの挿入 25
ハンマリング・オン 22

ひ

左手のフィンガリング 20
ピックストローク 20
ビットマップフォーマットのエクスポート 52
ビブラート 24
拍子記号 11

ふ

ファイルの検索 34
フィンガリング 20
フェード・イン 20
フォーマット 46, 50
フォーマットファイルのインポート 49
フラット 18
ブリッジミュート 31
プリング・オフ 22
フレットボード 59

へ

ページ・セットアップ 44
ペースト 29
ベースライン 18
ペーパーサイズ 44
ヘルプ用言語 4

バンド [23](#)

ほ

ポート [40](#)

ポッピング奏法 [22](#)

ま

マーカー [28](#)

マーカーを追加 [28](#)

マージン [44](#)

マイクフォン [62, 63](#)

み

右手のフィンガリング [20](#)

ミックステーブル [43](#)

め

メイン画面 [10](#)

メトロノーム [42, 63](#)

ら

ラスゲアード [20](#)

り

リズム [18](#)

リピート [15](#)

る

ループ再生 [42](#)

れ

レット・リング [21, 31](#)

連符 [17](#)